

## 第 3 回

# 中野区立中学校教科用図書選定調査委員会

日 時：令和6年6月25日（火）午後1時30分～  
場 所：中野区役所7階 教育委員会室

午後1時30分開会

○事務局 それでは、始めさせていただきたいと思います。皆さん、こんにちは。本日は、お忙しい中、会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

これより第3回中野区立中学校教科用図書選定調査委員会を始めさせていただきます。本日、事務連絡は特にございませんので、次第に従い会議を進めさせていただきます。まず、次第の1というところで、本日の資料でございますが、こちらは4点ございます。

1点目は調査研究報告書となります。こちらのクリップ留めとなっているものです。

2点目は6月19日時点での学校意見になります。

3点目は保護者・区民意見の一覧になりまして、こちらも6月19日時点で更新したものとなっております。

最後は生徒意見になります。こちらは残る中学校1年生の意見になります。

今回お配りした資料についても、第4回選定調査委員会が終わりましたら回収させていただきますので、本日の協議の際のご参考としていただければと思います。

次は、次第の2、本日の議題である「教科書に対する意見について」です。

それでは、委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長 皆さん、改めまして、こんにちは。それでは、本日もよろしくお願いいたします。私のほうは、前回と同様、議事の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速でございますけども、ただいま確認がありました資料をお読みいただくといえますか、確認いただく時間ということで、前回と同様、大変恐縮ですが、10分程度でお読みいただいて、私の時計で42～43分になりましたら、またお一方ずつ指名させていただいて、2分程度でご意見をお伺いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、資料の確認をお願いいたします。

〔資料読み込み〕

○委員長 皆さん、それでは、よろしいでしょうか。十分な時間が取れなくて申し訳ありません。

それでは、前回に続きまして、お一人ずつからご意見を発表していただきますけども、発行者の数が多うございますので、前回と同じように、お一人2分程度でお話をいただきたいと存じます。また、流れの中ではありますけども、あまり意見が出ていない発行者に

についてもぜひ触れていただければありがたいと思っております。

では、早速でございますが、社会（地理的分野）からということで、〇〇副委員長のほうからご発言をいただければと存じます。よろしくお願いいたします。

〇副委員長 地理的分野ということで、どの教科書もSDGsという視点を取り上げていたかなと思います。その中でも、私は帝国書院の取り上げ方、表紙を開くと、大きく取り上げながら、よりよい社会を目指すという意識を教科書全体を通して育もうという意図が見えたと思いました。また、人々の暮らしぶりが見えるような写真とかイラスト、あるいは地図がふんだんに使われて、生徒にとっては視覚的に学びやすい教科書という印象を持ちました。節の終わりに主体的な学びに関する振り返りが設定されていました。深い学びにつながると思います。

次に、東京書籍がやはり、SDGs的な視点が全体を通していたかなと。ただ、東京書籍は、表紙を開くと、「世界の食事を見てみよう！」という子どもがすごく入りやすいような視点から入って、その次をもう一回めくるとSDGs関連のほうに入っていくって、ここでは、特に第4章に、ほかの教科書は「地域の在り方」というふうにしているのですが、あえて「持続可能な地域の在り方」という章を設定して、そこで深く掘り下げるような工夫があったと思います。

あと、日本文教出版は、3番目、SDGsについての視点を貫いていると感じました。あと、日本や世界の中で今起きている出来事、例えば環境の問題とか、揺れ動くヨーロッパ社会とか、そういったものを取り上げながら考えさせるような工夫があったかと思えます。あと、2次元コードでポートフォリオという章が必ずあって、学習の見通しを立てたり、まとめたり、振り返ったり、役に立つものと感じました。

教育出版について特徴的なことは、日本列島の衛星地図がものすごく大きく見開きで示されて、視覚的に訴えるものがありました。その前後に、例えばオリンピックの開催地の共通点とか、日本の世界遺産の分布とか、子どもたちが身近に感じられるような課題を取り上げて、そこから多面的・多角的な見方を育む、そんな意図が感じられました。また、コラムが豊富で、EUの問題とか、ウクライナ、生態系の危機などの現代の課題をきちんと取り上げていると感じました。

以上です。

〇委員長 ありがとうございます。

〇〇委員、よろしくお願いいたします。

○委員 地理的分野については、どこの会社も知識の詰め込みにならないようにという工夫が、それぞれの会社ごとの工夫で取り扱われていたように感じました。それから、どの会社に関しても2次元コードというものが当然のごとく入ってきて、そこから発展していくような工夫になっていたことがよかったなというふうに思っています。

東京書籍につきましては、資料の写真であるとか、本文のバランスが、私は少し悪かったかなというふうに感じました。

教育出版株式会社につきましては、やはり、同じように、ページ内の資料等の扱いについて工夫をされているのですが、文字と資料とのバランスがどのページも統一されていて、それについては統一感が取れているように思いました。

帝国書院につきましては、単元ごとのまとめが非常にうまくされているなというふうに感じました。あと、どこの会社もそうですけれども、地図や資料の扱い方について工夫はされているのですが、帝国書院については適切である、精選されているというふうに思われました。

日本文教出版につきましては、やや文字が多めかなというふうな気がしました。文字と資料との扱いのバランスについてはいいかなと思うんですけれども、文字が多めということは生徒にとっても抵抗感が出てしまうかなというふうな気もしました。

私は以上です。

○委員長 ありがとうございます。

続きまして、〇〇委員、お願いいたします。

○委員 地理的分野ということですので、やはり、何ととっても、写真等の見やすさ、分かりやすさが判断の基準になるだろうと思います。そういったところから見ると、4者の中では帝国書院が最も適していると思いました。4者に共通するものは2次元コードであって、量の大小はありますけれども、どの発行者も適切であるかなというふうに思います。

以上です。

○委員長 〇〇副委員長、お願いします。

○副委員長 今回につきましても、生徒の意見をやはり中心としながら、その視点でピックアップさせていただきたいと思っています。

東京書籍につきましては、単元のまとめ、振り返りみたいところで多様な思考ツールを活用できたり、コラムが多く配置されているので、そういった面では非常に好感が持てました。また、単元ごとに配色を変えるという工夫や、あと、2次元コードは非常に充実

しているなという印象でした。しかしながら、地図や写真などがやや小さめかなという印象です。

教育出版ですけれども、單元ごとに配色を変えるという工夫や、SDGsとの関連を意識した部分はあるという捉え方はできましたが、地図、統計資料、写真が小さかったり、あと、振り返りのページにしか2次元コードがなく、ちょっと興味を引くのにはいま一つかなという捉え方があります。

帝国書院ですけれども、こちらは本文、資料が共に分かりやすく、特設ページ、コラムが非常に豊富で充実していましたし、配色を変えるという單元ごとの工夫そのものがよかったなど。2次元コードも非常にコンテンツが充実していて、資料、ワークシートなども活用できるような形で捉えることができました。

日本文教出版でございしますが、こちらは、単元の問いに対して多様な思考ツールを用いて深めることができそうだなということや、單元ごとに配色を変えるという工夫が見られているなというふうに捉えました。しかしながら、こちらも、資料や統計、地図、写真などはあまり見やすすくないなという印象がございました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 どの会社も2次元コードがついているということは、今の時代の教科書かなというふうに思いました。

東京書籍に関しては、学習の流れの見える化ということで、生徒が教科書を使って自習をしていく、そのプロセスが分かりやすく、自分でも学習しやすいかなというふうに思っています。

また、教育出版、それから、日本文教出版も、そのような導入、本文、まとめというような学習の流れについては入れているのですが、やはり、最終的に、例えば思考力とか、判断力とか、そこを深めるというところでは東京書籍にややちょっと劣るかなという印象を受けました。

それから、3者は、それぞれの工夫はあるのですが、先ほどもほかの委員の方々がおっしゃっているように、図がそろっていなかったりとか、ぱっと見、ちょっと見づらいなという部分があって、そういう中では、やはり、帝国書院の図のバランスとか、本文の構成とかが、ぱっと見たときに、全体的に整っていて、見やすいな、また、写真に介する注釈

や何かが丁寧に書いてあるなという印象を受けました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 どの教科書もとてもカラフルで、写真も地図もいろいろあってということで、面白いというような感じの印象がありました。

東京書籍は、まとめのツールみたいな、そういうところが、なるほど、こういうふうにまとめていくのだなと、こういうふうに深めていくのだなということがよく分かったというふうに思いました。

また、帝国書院の、配置とか、それから、色的なものとかというのはきれいにまとめられて、見ていて見やすかったなというような印象はともありました。また、探求活動もやっていこうみたいなところも最後にあったりするのはいいなというふうに思いながら見ていました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、いかがですか。

○委員 帝国書院の内容は、文章の量と資料の量が、学習指導要領で示されている中学校の段階として適切な量というふうに考えられるなと考えました。

それ以外の3者では、思考、判断、表現の育成につながる部分が少し高度かなというふうに思いました。高度であるのですけども、対話的な学びが促される補助発問などが少ないということが3者共通で感じられました。

構成及び分量としては、やはり、地理はイラストとか写真が非常に重要かなというふうに思うんですけども、イラストが多くあるなというふうに思ったのは帝国書院です。写真資料が充実している。きれいな写真、デジタル教材と遜色なく見せるということは、紙の教科書でできるということですね。ただ、多いので、地図、写真が小さくなってしまっているところもあったり、150ページには防災に関する絵図など、工夫されている資料も多いなというふうに思いました。

教育出版はシンプルで、見やすく、写真が大きい。資料欄が多くて分かりやすい。ただ、余白が多くなっているのですが、書き込む内容が難解になっているため、余白を生かし切ることができないことが残念なところでした。

東京書籍も地図や図は見やすく、「まとめ」ゾーンが明確で、活用しやすいなど。思考ツールの使用例が示されているため、単元でのまとめに活用できるというふうに考えました。

日本文教出版は、思考ツールの活用例が示されているので、使用上の便宜としての問題点はないというふうに考えられます。

2次元コードについては、活用場面が明確ではないなというところが3者であって、帝国書院だけは学習上必要な箇所にあるので、活用しやすいというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

続きまして、○○委員、お願いいたします。

○委員 東京書籍のほうでは、巻頭のところの、先ほど○○副委員長が言われていた「世界の食事を見てみよう！」というところで、これは家庭科であったり、学校給食であったりといったことにつなげられるのかなということで、子どもたちが興味を持ってほしいなというところだと思いました。

教育出版のほうは、2次元コードが、地理的分野だけではなく、歴史とか公民も「まなびリンク」ということで、全てが同じように並んでいることですのでごく見やすいというところと、地理なので、章ごとに語句を使ったクイズがあって、解き直しがしやすい。間違ったところ、苦手というところの項目があって、もう1回解き直しができるというところで、自宅に帰っても、2次元コードさえちゃんとタブレットに入っていれば、自宅でも振り返りができるのかなということで、活用をするのにはいいのかなというふうに思いました。

帝国書院のほうなんですけれども、写真で眺めるというところから始まったと思うんですが、旅行者の数の変化とか、特産物を紹介するというところは分かりやすいというか、子どもたちが興味を持つように「旅行者」というふうに入れたのかなと思うんですけど、そういうところはちょっと面白いかなというふうに思いました。

日本文教出版のほうは、2次元コードのほうで、単元ごとの小テストが5問必ずついているということで、これのやり直しができるということで、自宅学習で活用ができるのではないかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、いかがでしょうか。

○委員 どの会社さんも、たくさん図表があったり、工夫がたくさん見られたのですけれども、東京書籍さんのほうは、冒頭の、身近で、興味を持ちやすい「世界の食事を見てみよう！」というものが、そこから、その土地の特徴であったり、流通であったり、あるいは経済、宗教などに広がっていく、理解につながるといいなと思いました。

教育出版さんは、本の使い方が、自主学習をしやすい工夫を感じられて、よかったと思います。写真や図の資料も多くて。若干なんですけれども、字間が少し広めに感じて、読みやすい。読むスピードと理解するスピードというのはちょっと違うと思うんですが、ここがちょうどよいと感じました。

帝国書院さんは、思考ツールの紹介が面白かったです、図表も多く。デジタルのほうでは、独自サイトで、GISジオグラフが特に面白いなと思いました。ただ、私にはちょっとステップが多めなのだなと感じたので、ゴールにたどり着くまでにちょっと手数が多いかなと思いました。

日本文教出版さんは、冒頭の「地理的思考方、読み取りのポイント」というところがすごくよかったです。何を勉強したらいいかということが分かりやすかったです。教科書の構成や、学ぶ流れも丁寧だったので、やはり導入は大事だなと思いました。デジタルは、日本文教出版さんが1番充実しているなと感じました。独自サイトなんですけど、ワークシートとか、小テスト、シミュレーションができたり、必要に応じて外部サイトもあったので、こちらもそのときによって使いやすそうということがよかったと思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員 東京書籍さんは、文字の部分とグラフつきの図の部分の背景色がちゃんと分かれていて、とても分かりやすかったです。ワードチェックの問題形式になっており、自宅でも楽しく学習できるようになっていたのも、とてもよかったです。

教育出版さんは、日本に対する内容が結構しっかり書かれていて、とてもよかったです。学習課題について、单元ごとに、单元の問いに対して分かりやすかったので、とてもよかったです。あと、フォントがとても見やすかったです。

帝国書院さんは、背景に色を多用していないため、グラフや図や写真がとてもきれいにできて、シンプルで見やすく、楽しく学べそうだなと思いました。地図のクイズが楽しそうでした。

日本文教出版さんは、2次元コードは、ポートフォリオを用いて、どういうことを学べばいいかということ、自分で学習をまとめたりとかをすることがしやすそうで、いいと思いました。各国のSDGsの課題が分かりやすく、学びやすいと感じました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いいたします。

○委員 地理だから写真が重要だというご意見がありましたけども、写真という点で言うと、東京書籍、教育出版は写真がよくないです。例えば、洞海湾が公害で汚くなった、よくなったという写真がどの発行者にも載っているのですが、日本文教出版には載っていないような気がするのですが、それ以外には載っているのですが、正しく新旧を同じアングルで撮っているのは帝国書院だけです。東京書籍と教育出版は、どこどこが対応しているのかがよく分からないような写真が載っていて、例えば、ほかにも、教育出版の場合は、メコン川という写真が出ているのですが、ラオスの中流域の写真を出していて、メコン川には僕は行ったことがあります、下流域のメコンデルタの写真のほうがよっぽど面白いと思うので、何をやっているのか、この会社はという感じがすごくしました。

それ以上に思ったのは、東京書籍のほうも、異文化理解とか、そういうことのお話で料理から入っているというのは、もちろん身近な話題から取り上げてということはあると思うんですけども、その後に取り上げているのは野球とダンスとか、そこまで生徒にこびる必要はないのではないかという気が、教える人の考え方にもよるのでしょうかと思って。さらに東京書籍は、NHK連続テレビ小説「なつぞら」とかいうものまで、北海道の6大菓子メーカー「柳月」というところがあるのですが、その人のインタビューとかを載せていて、そこまでやる必要はないのではないかと思います。

教育出版のほうにもそういう傾向があって、大田区の町工場が出てきたり、HARUMI FLAGが出てきたり、価値にすごく疑義があるようなもの。大田区の町工場は、たしか、昔の道徳の教科書の中に安倍が乗ったボブスレーとかが出てきたんですけど、そんな話と関連するような感じで、ちょっと政治的なものを感じて。教育出版はさらに、オリンピックはどこで開かれるのでしょうかとか、そんなものは要らないでしょうというような、あまり本質的でない、オリンピックが開かれるということは、そこにちゃんとした国があるということだから、そっちを勉強すればいいだけの話で、結果から原因を推測することもしないで、それだけをチェックするというのは、何かおかしい。ジオパークとか、世界遺産とかも、それが成立した事情を考えないで、あることだけでそこにいいものがある

るというようなロジックになっている感じがして、東京書籍と教育出版はちょっと何かおかしいのではないかという感じがしました。

帝国書院は、一方で、さっき洞海湾の写真は正しいと言いましたけども、ほかにも正しい写真はいろいろあって、京都の二寧坂を無電柱化しましたということで、新旧を全く同じアングルから撮っていて、これはものすごく分かりやすいと思いました。さらにもう1個、帝国書院を推したい理由は、練馬区の地域調査課題というものが載っていて、これは中野区の教科書なんですから、近くの地域調査課題が具体的に出ていて、やれるようになっているということはすごくいいのではないかと。ただし、農家数の話なので、中野区は農業委員会はなくなってしまっていますから、農家はあるのですが、調べても、5戸しかありませんとか、そんな話になりそうで、ほかのものを調べたほうがいいのですが、取りあえず練馬区はそうだとということが分かって、いいのではないかと思います。

最後に、日本文教出版なんですけど、どうも行政にすごくおもねっているというか、まず、国の境界にこだわり過ぎていて、千代田区にある領土・主権展示館とかの写真、こんなものは要らないです。ここも行ったことはありますけど、すごくしょぼい展示で、こんなものがどうしてあるのかという感じが個人的な意見としてあって。あと、電動キックボードがすばらしいものだとかいう意見しか書いていないとか、多摩ニュータウンに住む瀧口さんの話として、多摩市制50周年イベントを通して地域が盛り上がるとうれしい、その意見しか書いていないんですね。いろんな議論があったはずなんですけど。行政がやることは全部すばらしい的なものを地理の教育を通して押しつけようとしているのではなからうかということを経験して、これは駄目だなというふうになんか感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いいたします。

○委員 東京書籍の表紙裏の「世界の食事を見てみよう！」は、私も同じように感じました。

それから、東京書籍は、目次のすぐ次に、学習というのは、課題をつかむのだ、追求するのだ、それから解決するのだという、普遍的なというか、そういうものをまず示した後で、地理というのは「5つのミカタ」をやるんですよということで、「位置や分布」、「人と自然のかかわり」、「場所」、「地域」、「結び付き」ということで説明をしているということは、導入の部分としては、子どもたちに、これはこういう学習をするんだよということ

ではいいかなというふうに思いました。「5つのミカタ」というのは、日本文教出版でも同じように出てきますし、地理というのは共通してこういうものなのかなということを改めて思いました。帝国書院にもそれは載っていました。

それから、東京書籍で、これは中野区の子が興味を持つのではないかと思ったのは、都市圏というところで、昼間人口と夜間人口という比較が地図入りで載っていたんですね。中野区は1.0だったのです。つまり、昼間人口と夜間人口は同じだよという。杉並区は0.9で、新宿区になると、昼間人口は2.幾つとすごく大きくなる。だから、その辺での人の動きとか、自分の住む場所はこういうところに位置づいているねということで、これは興味を持てるかなというふうに思いました。

それから、教育出版では、「地域にまなぶ」という副題が教科書そのものについているのですが、そういう観点で作られているのかなと。先ほど出た衛星写真は、私もこんなにきれいなのかというふうに思いましたが、すぐ隣に伊能忠敬の地図が載っているんですよ。そっくりなわけです、伊能忠敬の歩いて作った地図と衛星写真の地図が。これも興味を引くかなというふうに思ったりしました。

帝国書院は、「未来に向けて よりよい社会を目指して」ということを副題にして、こういう立場で学習していくのだよということを子どもたちに示しているのと、地域の違いということを緯度と経度、それから、時差というもので考えようというような記述があって、これは考え方として面白いなというふうに思いました。

日本文教出版は、「持続可能な社会と私たち」という副題がついていて、それが口絵にもなっています。これはちょっと理屈っぽいかもしれないけど、地理の「地」というのは、土地、大地、地球の「地」だと。地理の「理」は、理屈、なぜそうなったか、その訳、それを学ぶのだよということで、地理というものの説明をしているということです。

あと1つ、言い忘れたのは、教育出版で、世界地図を一筆書きするということが載っていた部分があるんですね。ぐっぐつとやって、こんなふうにやっていくと世界地図を描けるよということで、オーストラリアだけは一筆にならないのですが、それも面白い切り口だなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 どの教科書も甲乙つけ難いのですが、教科書というものをちょっと考えたときに、

幼稚園児が小学校1年生になるとき、幼稚園のときは教科書というものは全然なくて、小学校1年生でテキストをもらって、そこの中には、主に書き順とか、そういうことがメインで出ているんですね。書き順とか、言葉を覚えようという。小学校で、中、高となるわけで、卒業して、中学校1年生になりましたと。社会科はこの教科書ですということで、一遍に厚くなるので、これで子どもたちは嫌になるというようなこともあるので、発育、発達に応じた教科書ということで見ると、やっぱり、幼稚園、小学校のときの教科書のありよう、今度は中学校での教科書のありようというようなことで、地理的分野は1年生で、日本はどういうところかを考えましょうということで、科学的な教科書になっていると思いますが、私も見ましたが、先生方のご意見にもあるように、帝国書院がやっぱり伝統のあるもので、いいなど。これに併せて、副教材として地図帳も帝国書院のものを使いますので、セットというか、連携して学習しやすく、そういう意味では、この会社は、資料とか、そういったものは素晴らしいものが子どもに与えられるように、あるいは、本としても与えられるようにということで、継続になっているので、私は帝国書院がいいかなというふうに体感してきました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

地理的分野ということでございますけども、私のほうからも、各発行者がそれぞれの強みといたしますか、あるいは、こだわりというものが感じられるなというふうに思っております。基礎、基本の確実な習得だとか、あるいは、地理的分野ですから、特に、委員の皆様がおっしゃるように、資料や教材の正確さ、分かりやすさ、特に、表記されていることや表現等について着目をいたしました。あと、社会科全般ですけども、やっぱり、学び方、考え方の習得ですね。そういった点が生徒の視点でいかがかなというところを見させていただきました。大体、委員の皆様がおっしゃるような傾向で、私も読み取ったところでございます。ぜひ、生徒がより身近に感じられていくような話題を取り上げてくれたりとか、そういったところも見ていけるといいかなという印象を持ったところでございます。

地理的分野については、以上で委員の皆様のご意見ということでよろしいでしょうか。

それでは、続きまして、社会（歴史的分野）ということで。

○副委員長 委員長、申し訳ないです。

○委員長 ○○副委員長は用事があるということで、退席でございます。ありがとうございました。

社会（歴史的分野）のほうで、それでは、早速ご意見を頂戴したいと存じます。

〇〇委員のほうからお願いできますでしょうか。

○委員 歴史的分野です。

会社数も多くて、それぞれいろいろあるのですけれども、まず、東京書籍のほうから行かせていただきたいと思います。見開きページの写真と文字のバランスが何となくしっくりこないような気がしました。

教育出版です。ページ内のバランスは非常によくて、授業もスムーズに進んでいくのではないかというふうな気がしました。

帝国書院です。「タイムトラベル」という項目が随所にあリまして、これは、歴史の捉え方を面白い視点で捉えているなというふうな気がしました。ただただ歴史を記憶として扱うのではなく、テーマごとに扱っているのかなというふうに思いました。それから、学習の仕方を学ばせる、考えを整理する方法というようなものが出てきていて、子どもたちが歴史を見る中で、こういう視点で考えていくといいというような1つの方法を示しているのはいいのかなというふうに思いました。

山川出版社です。「地域からのアプローチ」ということで、その歴史と日本との関係というものが関連づけて捉えられたりするような取組がされていて、よかったかなというふうに思っています。

日本文教出版です。教科書のページ内の周囲の資料と文字の境が非常に見づらくて、文字が多いなというふうな感じもしました。落ち着いて見ていられないようなアンバランスを私は感じました。右脇に年表が書かれていまして、その時代と今学習しているところの位置関係というものは分かりやすく示されているのかなというふうな気がしました。

自由社です。これは意見もいろいろ出るところかなというふうには思いますけども、神話の部分を扱っているというところで、これにはいろいろな意見が出てくるのではないかなというふうに思っています。「もっと知りたい」というコラムの部分については、歴史をさらに深く考えるという点では面白い取扱いかなというふうに思っています。

育鵬社です。キーワードについて、言葉の下にほかの関連ページが書かれているということで、ほかの時代であるとか、ほかのページとの関連が容易につけられる工夫がされているのはいいかなと。それから、先ほどのどこかの会社と同じように、左ページ下に年表が書かれていて、その時代と、歴史の中でどういう位置づけなのかということを学習をしながら捉えていけるという工夫がありました。「学習のまとめ」というページについては、

扱い方が面白かったかなというふうに思っています。

学び舎です。左右ページのレイアウトの差が、全てのページが同じなので、これは意図してやられているのかなと思うんですけども、それが果たして効果があるかなというふうなところで疑問が湧いたところです。あと、扱い方として、見出しをキャッチコピーでまとめているという扱いは、歴史の扱い方とすると面白い扱いかなと。例えば、「戦場は中国だった」とか、「村に学校ができた」とかというようなキャッチコピーでその時代の歴史をまとめているというような扱いは面白い扱いかなと思いました。

令和書籍です。教科書というイメージとなかなか違うものなので、抵抗感があります。教科書は授業を進めるツールとしてということで考えると、非常に扱いづらいのかなというふうに個人的には思われました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 歴史的分野ということで、これは、どの時代のことについても、子どもたちの興味、関心をいかに高めることができるか、興味、関心を誘う内容かということが重要な視点ではないかと思うんですね。教員の授業力、指導力にかかわらず、その辺りだと思うので、そういったところから見ると、東京書籍が総合的に指導のしやすさ等を感じました。

それから、あともう1者、帝国書院ですが、「タイムトラベル」、これが、生徒の興味、関心を高める工夫として、実際に自分がその時代に行ったらということでの工夫が感じられているように思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○副委員長、お願いします。

○副委員長 東京書籍ですが、資料の色遣い、それから、ルビ振りなどがあって、非常に読みやすく、見やすいかなという印象でした。また、様々な思考チャート、それから、グループ活動を推奨するような場面が明記されていますので、歴史ということであれば、今の自分の生活との対比であったり、今後の学びに向けてというところにも、触れるのにとってもいいかなと思いました。2次元コードについては、基礎的な内容からまとめ方というような部分などが豊富にそろえられているなという印象です。

教育出版です。こちら写真、図が非常に多くて、色分けもはっきりして、分かりやす

かったです。また、太字のゴシック体が見やすく、何が重要なのが分かりやすいという印象でした。また、各項目の同じ位置に年表があって、見通しが見やすかったり、あと、人々の生活の様子、時代の様子を捉えやすいという印象でした。2次元コードについては、動画があって、分かりやすいところもあるのですが、補足的なイメージで、まだまだこれからかなという印象です。

帝国書院ですが、こちら資料が大きく、見やすく、イラスト、図の色分けなどが明確で、とてもよかったなと思いましたし、また、時代のまとまりごと、あるいは、対話的な学びの場面、そういう特色をまとめるようなページがところどころにあったような気がいたします。2次元コードに関しましては、教科書の1部ページをデジタルで見ることができるといったような内容でしたので、深い学びにつながるかという点、そこまでは感じられませんでした。

山川出版社です。こちらは、時代ごとにある「地域からのアプローチ」というところについては興味を引く内容を感じましたけれども、いかんせん文章量が非常に多いというようなところで、中学生にとっては難しい印象を受けるので、まず、印象的なところから工夫が必要かなと。それから、2次元コードについても補足的なイメージを感じました。

日本文教出版です。資料の数、そして、見やすく、大きい、また、色の使い分け、こちらでもよく分かりやすくできていました。印象的だったのは、「先人に学ぶ」、「伝統と文化」というようなところで、生徒間だけではない、何か対話的な学びが促されているなという印象がありました。2次元コードでは、確認小テストなどができるということも、主体的な学びの部分で使えるかなというふうに感じました。

自由社です。こちらは、資料、それから、文字の大きさ、写真が非常にシンプルで、見やすいイメージです。復習問題のページなども用意されていて、基礎、基本の習得は非常によくできるのではないかと。しかしながら、情報量が多過ぎて、子どもたちは読み通さないかなという印象がありました。2次元コードはございませんでした。

育鵬社です。こちらは資料の提示が多く、学習課題について調べたり、追求するような活動を行いやすいような配慮を感じました。世界史の内容を入れるページなども時系列で配慮されているところから、世界と日本の歴史の対比などについても非常に興味深く感じられるかなと思いました。2次元コードについては、非常に内容が発展的であったので、難しさも感じますが、歴史が好きな生徒にとっては非常に興味深い内容になるなというふ

うに感じました。

学び舎です。写真などの資料は大きく、非常に見やすく、章ごとにまとめとしてグループ活動などができる学習課題も用意されているというふうに思いましたが、語句の見分けがちょっとつきづらいなという印象でした。2次元コードはございませんでした。

令和書籍です。全体的に難しいな、分かりにくいなという印象ばかりが少し感じられるようなイメージです。2次元コードはございませんでした。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 まず、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、この4者に関しては、地理的分野、それから、公民的分野と、それぞれ3つの領域にわたって出版しているというところもあって、それぞれ共通の傾向が見られて、地理的分野と同じような部分がありました。学習の流れがやっぱり分かりやすいなという部分では東京書籍、それから、全体の見やすさ、そういうところでは帝国書院が見やすいなというふうに思いました。この4者に関しては、やはり、いろいろな歴史、世界のこと、日本のことを満遍なく学ぶ、初めて学んでいくという部分では、バランスよく配置をされているかなというふうに思いました。

山川出版社に関しては、やはり、バランスはいいと思うんですけども、文章量、それから、情報量がすごく多い。よく言えばとても詳しいなというふうに思うんですが、中学生が処理をしていくにはちょっと分量が多いかなという印象を受けています。

自由社についても、やはり、内容的には、神話に関する記述とか、そういうところで、バランス的には偏りが少しあるかなというふうに思います。

育鵬社に関しては、例えば、政治の仕組みの比較の部分とか、それから、日本の古代の資料の写真の点数などはすごく多くて、個人的な印象としては、日本の歴史を中心に置きながら、世界の歴史との関係をバランスよく持っていくのかなというふうに思いました。

学び舎に関しては、ぱっと見た瞬間に、本当に言葉は悪いのですが、地味な印象、シンプルと言えばシンプルなんですけど、教科書としてはちょっと落ち着いた印象があり、また、中身的には、例えば女性問題とか、現代的な問題も取り上げていて、それが歴史と公民のつながりになるのかなというふうに思いました。

令和書籍に関しては、やはり、縦書き、それから、印刷が白黒ということで、ちょっとほかとは違った印象を受けました。内容的にも、かなり歴史が好きでないと興味を持たな

い内容なのかなと思って、歴史好きの人が読み進めていくのにはいいのかなと思うんですが、全員が、多くの人が学ぶ教科書としてはどうかなというような印象を受けました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 東京書籍と、それから帝国書院は、年表が、背表紙というか、めくるところに、長さでいろんなこと、時代が示されていて、これは分かりやすいなというふうに思いながら見ました。また、まとめのところとかでは、東京書籍と教育出版は、日本の歴史、日本のその時代の出来事と一緒に、その時代にほかの国はどうだったのかみたいな年表が一緒になっているものがまとめとしてあったので、それは、両方を順番に学んでいるような、今は日本、今は世界みたいに学んでいる子どもたちの中では、それが一緒になったものが提示されているというのは、それがくっつけて分かりやすいのだろうなというふうな印象がありました。

あとは、帝国書院の「タイムトラベル」というのはちょっと面白そうだなと。どんな意見をほかの人は出すのだろうかということを考えながら取り組めるということは、ちょっと面白い題材なのかなというふうに思って見ました。

それから、あとは、多くの方々が言っていたことと大差はないかなと思っていたことと、もう1つは、教科書の大きさは、学び舎はものすごく大きくて、令和書籍は小さくて、セットで持ち歩いたりとか、そういうことを考えてしまうと、あまり大き過ぎるものがいきなりぼんとあっても、ちょっと子どもとしては扱いづらいのかなというふうな感じを持ちました。

また、令和書籍は、白黒だということと、小さいということもあって、しかも、構成は縦書きで2行になっていて、あまり読み物としては、ほかの教科の教科書との統一性ではないですけど、ちょっと異質な感じがしていて、多分、すごく知りたいとか、すごく読みたいとかという、本的な要素としては読めるのかなと思うんですが、教科書と言われてしまうと、歴史だけが違うものを使っているとか、違う時間になっているような印象になるのかなと思うと、いろんなバランスを考えたときに、どうなんだろうかというふうに思ったりしました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

〇〇委員、お願いします。

〇委員 前日も言ったのですが、教科用図書は、教科を教える中心的な教材として使われる教材のことであり、学習指導要領にのっとって、中学校で3年間で教えていくということを大前提に話していきます。

9者あって、各発行者で非常に特色があるなというふうに思いました。早口で行きます。

東京書籍ですけれども、基礎的な学習の習得につながるような用語が分かりやすく説明されているなというふうに感じました。資料が充実していて、それを活用することが授業者としてはしやすいなというふうに思いましたが、ただ、分量は小学校に寄っているかな、近いなということ。中学生の発達段階に応じた分量としては少ないような気がしました。教科書の余白が多いため、何を学習しているのかが明確でないという部分、前方後円墳の立体図等とかです。そこは見やすく、工夫されているのですが、写真等は工夫されているのですが、余白はちょっと多いなというふうに思いました。

次は教育出版です。これは写真が多くて、見やすいなということと、見通し、学習内容、まとめが明確に示されているというふうに思いました。

帝国書院は、イラスト等で単元の見通しを持てるように工夫されている。あとは、写真、資料が大きく、クリアで、見やすい。「タイムトラベル」で見通しを持たせている。探求課題が明確に示されている。あとは、世界の歴史についての見通しが150ページ、168ページにあったのですが、掲載されていて、広い視野から活用できると。あと、人権に対する配慮の描写が示されているというところは、カリキュラムとしてできているなというふうに思いました。

山川出版社ですが、これは東京書籍と反対で、ハイレベルだなというふうに思いました。教えるべき内容はもちろん書いてあるのですが、それプラスアルファの内容がベースになっているようなところで、高校の学習内容にちょっと近いなというふうに感じました。それに伴って、資料が少ないなという部分もあって、あと、文章と合わないような部分もあるというふうに感じられました。

日本文教出版ですけれども、214ページに「近代の雑誌の表紙」というものがあって、単元の冒頭には歴史に対する興味、関心へとつながる資料が掲載されているということで、生徒の興味を引きやすいなというふうに思いました。色が見やすい。文字が大きくて、生徒が読みやすい表記をされているというふうに感じました。単元ごとに探究課題が出されているため、探究的な学びを個別に進められるという工夫がされているなというふうに感

じました。

自由社は、読みやすい表現が用いられているのですけれども、図が多くないため、イメージを持たせるためには、授業における工夫ですね。授業者が写真とか図とか、そういったものを取り上げてくるという工夫が必要です。

育鵬社は、全体的な分量は適切かなと思ったのですが、学年段階に応じた量にはなっていない。1年生、2年生、3年生というような量にはなっていないかなというふうな印象がありました。あと、表現としては読みやすい。ただ、図や事例が少ないというようなことが感じられました。

学び舎です。分量が多いですので、読解が苦手な生徒にとっては読み進めるのは時間がかかるなど。ただ、表現は読みやすくなっているかなと思いましたが、例示、図で示された部分は少ないという印象でした。

令和書籍は、学年の発達段階に応じて、適切に量を授業者のほうで調整して教えていくという工夫が必要だなというふうに感じました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 東京書籍のほうでは、「みんなでチャレンジ」というところがあったと思うんですけど、個人で考えるところと、グループで考えるという内容になっていて、探求課題としては、課題の一覧になっているところもあって、学習をしやすいかなどというふうに思いました。

教育出版のほうなんですけど、「西洋文化と伝統文化」のところ、夏目漱石と樋口一葉の写真があるだけでなく、作品の冒頭の部分が紹介されているのはよかったなというふうに思いました。

帝国書院なんですけど、「アクティブ歴史」のところの学習の振り返りのところで、ポイントがあったと思うんですけど、重要だと思ったことをグループで話し合うこと、話合いで気づいたことを踏まえて自分の考えをまとめるということで、振り返りというところがすごく充実しているのかなというふうに思いました。

山川出版社のほうなんですけど、2次元コードがついていることはついているのですけれども、見てもらいたい資料を読み込むと、「山川&二宮ICTライブラリ」ということで、本当に資料だけで、解説がなくというところで、これを子どもたちはどう捉えたらいいのかなというところで、私自身は困ってしまいました。

日本文教出版のほうなんですが、見開きの右側に時代、世紀の表が表示されていて、学習しているところの単元のところだけ色づけがされているということで、今はどの時代かということが子どもたちにとっても見やすいのではないかというふうに思いました。

自由社のほうですが、「人物クローズアップ」のコラムで、調べ学習の資料としては充実しているのだと思うんですが、「歴史用語ミニ辞典」の作成、時代比較、人物比較、「ひとこと」作文200字以内というところで、振り返りの課題は全てやらないにしても、多いかなということと、中学校1年生のときからこれはちょっと難しいのではないかと思います。

育鵬社です。章の始まりに歴史絵巻の2次元コードがついていたのですが、こちらも外部リンクにつながっているだけで、資料という感じでした。

学び舎のほうですが、章の振り返りで、年表の穴埋め問題、語群から選ぶ感じでしたが、白地図があって、書き込むようにもなっていて、その場所に何があったかということを手で確認できるようになっていたというところはいいと思いました。ただ、第5部の振り返りのところで4コマがあったのですが、日中戦争のときのイラストの顔がへのへのもへじであって、ちょっとそれは教材として適していないのかなと思いました。

あと、令和書籍のほうは、皆様がおっしゃっていたこととほとんど変わらずで、縦書きで、注釈だけ横書きとか、本文は本当に白黒のみで、カラーの部分は巻末のところだけということで、中学生が使う教科書としてはちょっと向いていないのかなということが感想です。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 歴史の教科書ということで、年表の扱いとかが結構私的には大事であったのですが、章の始めにあるタイプと、どこを開いてもある全体タイプと分かれていたなという感じです。個人的には、どこを開いても、ここを学んでいるよということがあるものが分かりやすいなと思いました。

大体どの会社さんも見開き2ページで、フォローの資料や、ポイント込みで完結するものが多くて、また、それも学びやすく、いいかなと思いました。特に、導入として、日本文教出版さんと帝国書院さんの、細かいけれども分かりやすい使い方がよかったです。自由社さんは、歴史の捉え方、これがよかったです。東京書籍さん、教育出版さんは、章の始めに課題がある、これが分かりやすかったです。それぞれに資料はいろいろあ

ったのですけれども、カラーで、写真も多くて。特に、自由社さん、こちらは地図の資料が多かったなということと、育鵬社さんはグラフ的資料が多かったなということと、学び舎さんは、当時の絵というものが、これは多分1番当時の、どこから持ってきたのか、見たことがないような。面白く拝見しましたけれども、そちらがそれぞれ多かったなという印象です。

デジタル教材なんですけど、帝国書院さんが1番、目的別になっていて、行きたいところにすぐ飛べて、分かりやすく、使いやすかったです。東京書籍さんは、ワークシートで、こちらは話し合いへの案内、また、クイズとか、ズームのできる絵でしたり、自主学習に生かせるなと思いました。日本文教出版さんは、ポートフォリオや動画で、結構フォロー的なポジションなのかなと思いました。また、フィールドワークをしているところも、ほとんどであったと思うんですけれども、その中でも、日本文教出版さんは調べ方のパターンが多くて、フィールドワークを体験するというのを特に押し出しているのかなという印象でした。山川出版社さんは、それとは別に、調査をした後のレポートのまとめ方や発表の仕方なんかに重きを置いているなという印象でした。そのほか、育鵬社さんの「歴史ズームイン」、「やってみよう」、山川出版社さんの「地域からのアプローチ」、「歴史を考えよう」のまとめですとか、教育出版さんの章の始まりとか、何に注目するか、まとめ関連ページへの案内なんかは、自主振り返りによいなという印象でした。あとは、帝国書院さんの「まとめ」ページで、自分でマーカーをつけて完成させるというものがちょっと面白かったです。これで、小テストではなく、マーカーをつけて自分で完成させる資料という。その振り返りによかったかなと思います。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いいたします。

○委員 東京書籍さんは、単元ごとに学習課題が明確で、学習した後に「チェック&トライ」で振り返り、学習の定着が図れると思いました。「みんなでチャレンジ」というところでは、グループで話し合うような対話的な学びのコーナーがあって、とてもよかったですと思います。デジタルツールのパートチェックが問題形式になっていて、楽しみながら学習できる。コンテンツも見やすかったです。

教育出版さんは、ほかの教科との視点で理解を深めるという感じで、ペリーの来航とかだと、文字の資料とか、現代文と古文の違いみたいな感じであったりとか、そういうものの対比ができて、とても面白かったです。教育出版さんは、時代スケールが横位置で、ほ

かのものは割と、横位置のところに縦位置で入っているのですけれども、横位置になっていて、これはこれで見やすかったです。

帝国書院さんは、思考ツールを使用して考えをまとめるということで、思考ツールがいろいろなものあって、ツールの使い方も動画で分かりやすかったです。イラスト、写真が大きく、見やすかったです。

山川出版社さんは、表紙がほかとちょっと違い独特な感じで、あまり歴史っぽくないような感じでした。紙面がすっきりしていて見やすいですけど、情報量が多かったです。あと、テーマタイトルとテーマで、考えてほしい課題が明確です。教科書の内容だけでなく、「ステップアップ」という項目で、より主体的に考えを深めるという課題はよかったと思います。

日本文教出版さんは、單元ごとに何を学ぶのかが分かりやすく、章ごとに大きいサイズの資料があって、見やすかったです。確認小テストが分かりやすく、よかったと思います。

自由社さんは、歴史用語を3つの文で説明する「歴史用語ミニ辞典」を作るというものがとてもよかったです。覚えるだけでなく、考えるということができて、いいと思いました。

育鵬社さんは、單元ごとに基本的な学習内容の確認、学習内容をさらに深く探究する学習方法で、定着しやすいと思いました。グループで話し合いをしたり、調べる、対話的な「トライ」というコーナーもあって、よかったと思います。

学び舎さん、こちらは、日本の年号、「昭和」とか、そういうものが書いていなかったの、ちょっと分かりづらかったかなと思います。「歴史を体験する」という項目があって、綿から糸を紡ぐとか、そういう自分で体験してみようみたいなところがあって、それは面白かったと思います。2次元コードがなくて、キーワードで検索するような、あまり今どきではない感じの検索の仕方でした。

令和書籍さんは、まず、開きがほかの教科書と逆だということと、あと、装丁があまりしっかりしていないような感じで、3年間使えるのかなということと、あと、教科書の題名が「国史」という題名で、ちょっと意味がよく分からなかったなど。中学校の教科書としてはどうかなと思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 令和書籍に関して、これを推薦しないという意見をつけるという動議を提出します。その説明を兼ねて、ちょっと令和書籍について説明しますが、まず、題名の「国史」というのは、これは駄目なテクニカルタームで、例えば、イスラエルの大学では国史科というものと歴史科というものが別に成立していて、国史科のほうでは自分の国の正当性を研究する。歴史を研究しているわけではないのです。そういう用語の使い分けをここで既にされていますので、これは題名だけで駄目だと思うんですが、中を見ると、序文で、まず、「国家の定義は時代により異なります」。これはこの書籍を書いた人の独自の解釈で、社会学の分野では、国家（nation）というのはナショナル・アイデンティティーを持つ共同体というふうに決まっています。定説があります。そういう意味では、ここ言っている、序文に書いてある「だんだん発展して、国民主権法の支配、基本的人権の尊重などを政治原理とする近代国家に発展しました。昔から変わらないずっと同じものが発展して行って、今がある」ということがほかのところにも記述があって、「我が国が古代以来、王朝交替を経ずに国家を継続できたのはなぜでしょう」とかいう課題が、この教科書の最後の締めでそういうことが書かれていて、それを言うために、よくこの手の人たちが言う日本国憲法の押しつけである手本を採用してしまうと、「古代以来、王朝交替を経ずに国家を継続できたのはなぜでしょう」という設問が無意味になるから、帝国憲法の引き継ぎとして有効に成立したという説が書いていて、これもいろんな説があって、法律を学んでいる人はみんなご存じだと思うんですが、帝国憲法が、八月革命と言われるもので日本国憲法になったということが割と定説です。ということで、一応ないことはない説ではあるのですが、それを両論併記の形ですらなく、一方的に書くということは、これは全然駄目なのではないかと思って、議題を提起しました。

そのほかにも、この教科書は、「聖帝」として歴代天皇の模範とした仁徳天皇とかいうお話があってみたり、「昭和天皇の二度のご聖断」とか、「日本を小国から大国に押し上げた明治天皇」とか、天皇のことばかり書いているという印象があって、あとは、「零戦はすばらしい」とか、「戦艦大和はすばらしい」とか、すごくかっこいい絵が描いてあって、割と僕はそういうものは軍事マニアでもあるので好きなんですが、ちょっとこれはやり過ぎではないかと思います。内容もちろん、縦書きで細かい字で書いてあって、これは採用されたら困る教科書だと思うので、強い意見をつけたいなと思いました。

それ以外に問題になりそうなものは育鵬社と自由社で、これは毎回の教科書採択で割と問題が起こっていて、前回の教科書採択では、ポジティブな意見は1個も出ないのに、育

鵬社を教育委員が一方的に考慮したみたいな事件がありましたけど、その前は、1人の教育委員が頑張ったおかげで採択されなかったとかいうことがあったわけですが、育鵬社と自由社に関しては、皆さんのご意見を聞いていても、僕も見て、4年前と比較して、マイルドになったなと思います。ほかのものとあまり区別がつかなくなった。ただし、歴史、国家というものをどう考えるかというところが根本的に間違えていて、これは僕は採択すべきではないと思うんですけども、それでもいいとおっしゃる方は、もはや大した問題ではなくなっているんで、それでも許容範囲かなという感じはします。

どうして自由社が駄目かという、例えば、神話と歴史を最初にごちゃ交ぜに書いているんですね。「神話や伝承は超自然的な物語をふくみ、また後世に改変された部分もあって、ただちに歴史的事実として扱うことはできません」と書いていて、そのとおりだなと思うんですが、「しかし」とその後が続けていて、「しかし、一貫したストーリーに構成され、大和朝廷の始まりにつながります」という何か訳の分からないことが書いてあって、これは、東京書籍は正しく書いていて、大和朝廷がナショナル・アイデンティティーのために、「古事記」とか、「日本書紀」とか、「万葉集」とか、「風土記」を書いたということを明言しているんですよ。「このような神話として扱われるものがほかの地域にもある」というものを地図上にプロットとして、東京書籍はすごく自由社のロジックに反論する形で書いていて、非常にいいなと思いました。

東京書籍の話に移りますと、東京書籍はそのほかにも、今話題になっているコロンブス、ネットで話題になっているのですが、コロンブスの絵のキャプションに、「この絵は、先住民の当時のヨーロッパ人の偏見を反映して描かれています」というような資料の見方みたいなものもきちんと書いていて、これは非常に中立的で、科学的な態度で、これはいいのではないかと思います。

あと、帝国書院というのは、先ほど誰かがおっしゃっていましたが、「未来に向けて 人権・多文化」というコラムがあって、これはとてもいいなと思いました。憲法の制定の過程については、先ほどの令和書籍と自由社と育鵬社は押しつけられたと言っているのですが、ここはちゃんと、植木枝盛さんの話とか、十分に議論したとか、そういう話も合っていて、山川出版社さんとか教育出版さんも、その点では非常に正しい歴史認識なのではないかと思います。

山川出版社は、その中でも、皆さんがおっしゃっていましたが、字が細かくて、内容が多過ぎて、高校の内容が入っているのではないかとすることは、そう思いました。そう

いうふうに批判された教科書として、4年前は、学び舎もそういうふうに、内容が多い、難しいという意見が出ていて、今年はあまり出ていないけど、見にくいという意見が多かったみたいなんですけど、僕は見やすい。それで、内容は厳選されて、適切と思って、南京事件を書いているだけではなくて、シンガポールでも虐殺が起こったとかと書いているし、沖縄戦が詳しい。沖縄戦が詳しいことは結構中野区にとっては売りで、中野区は、戦後、沖縄の人たちをいっぱい迎え入れた歴史があるんですよ。そういう歴史があるから、あそこに中野サンプラザ、勤労福祉会館とか、勤労青少年会館とかができたというつながりもあるので、沖縄戦に関してよく知っていることは、中野区の人にとっては非常に重要ではないかと思いました。

以上です。

○委員長 今、〇〇委員のほうから諮ってほしいという動議が出されておりますが、委員の皆様を聞いてからの扱いにしたいと思いますので、〇〇委員、続けてどうぞ。

○委員 歴史は9者もあって、読むのが大変だったのですけれども、幾つか、やっぱり大きな違いがあるなというふうに思いました。

令和書籍が話題になっているのですが、これは、最初から、先ほどから出ているように、題名が「国史」で、この教科書は国家の歴史を学ぶものなんですよという言い方で説明をしているという。国家の歴史を学ぶというのは中学校での歴史教育なのかというと、それは違うというふうに思うんですね。ですから、〇〇委員からのこれは駄目だろうということについては、私も賛成です。

それから、幾つか、どの辺が記述が違うかなということでは比べてみたのですが、先日、テレビを見ていたら、鎌倉の散歩みたいな番組が出ていて、その中の紹介で、鎌倉幕府は1185年に開いたのだという説明があったのです。私たちが子どもの頃に習っていたのは「いい国つくろう鎌倉幕府」ですから、1192年という。それがどういうふうにかかれているかを比較してみたら、かなり多くのところが、これまでの研究の中で、1番詳しくなかったのは東京書籍なんですけど、頼朝が鎌倉に本拠を置いたのは1180年だと。1183年には東日本の支配をすることを朝廷が認めたのだと。1185年に守護・地頭を置いて、幕府としての体制を整えたのだと。1192年は征夷大將軍に任ぜられたという。その辺でいろいろな諸説がありますよという詳しい説明が東京書籍には1番あって、これは、帝国書院なんかも、1185年と1192年、鎌倉時代の始まりということについてはいろいろな説がありますよという説明があるんですね。ですが、育鵬社は、1192年、征

夷大將軍に任せられ、鎌倉に幕府を開き、鎌倉時代が始まったという言い方で、これを読んでしまうと、征夷大將軍が始まりで、それを受けてから鎌倉に幕府を開いてというふうに取り取られてしまうんですね。これは違うなというふうに思いました。

それと、あとは、大きな違いは、この前の戦争についてどういうふうな認識で、どういうふうに描いているかというところは、中国の侵略から始まって第二次世界大戦までという、その流れが1番分かりやすかったのは学び舎でした。それについて、どうもこれは、戦争が間違っていなかったと言いたいのではないかというふうに取り取れるのは、令和書籍と自由社と育鵬社の3者なんですね。これは子どもたちには与えたくない教科書だなというふうに私も思いました。例えば、自由社というのは「大東亜」という言葉をいっぱい使っているんですよ。「この戦争を大東亜戦争と命名した」と。それは事実であろうと思うんですね。注がついていて、「戦後、アメリカ側がこの名称を禁止したので太平洋戦争という用語が一般的になった」という説明がついているのです。育鵬社も、GHQが「大東亜戦争」という言い方を禁止したということがわざわざ書いてあったりしてということです。あと、令和書籍では、コラムで「大東亜戦争（太平洋戦争）」という書き方をしている。そんなようなものがあって、戦争を肯定するような見方や記述というものはやっぱり退けるべきではないかというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 皆さんから言われたことと大体同意見なんですけど、東京書籍と教育出版と帝国書院辺りに主にレンズを当てて、見ました。後半も全部見ましたけども、皆さんのおっしゃるとおりだと思います。見たときに、非常に振り仮名が多かったということが気になりました。3者とも、応仁の乱とかにも、振り仮名がたくさんあった。行間が読みづらい上に、また、振り仮名がたくさんあると、果たしてそれでいいのだろうか、理解できるのだろうか、あるいは、その言葉を解説するために振り仮名がついているために、そちらのほうにまた移動してしまうというようなことで、振り仮名が歴史というものには多かったなという気が第一印象でした。

自分が社会科を何年か仮免でやったときも、徳川家康になった気持ちでここをやってみましょうと。徳川家康であつたらどういふふうにならぬ陣を攻撃するとかいふふうにならぬ設定をして講義をしたことがあるので、そういう立場になつて生徒諸君が1人ひとりどういふ歴史を学ぶか、あるいは、コロンブスと言われましてけども、自分がコロンブスにな

ったつもりで言ってみましょうと。どうなんだろうかと、そういうような授業をちょっとやったことがある。歴史上の人物になり切ってその単元をやるというようなことで、そのようにやりやすいような、歴史は、今はこの時代ですから、たくさんいろんな諸説があるんですね。ですから、どうして京都に城を造ったか、城を造ったときの気分になってみましよう。そうやって歴史観を共有するのですけど。そういうふうに、特に歴史の教科書は、諸説がいろいろ出てきまして、教科書は知識の栄養のもとだというようなことも言われていますので、より中野区の子どもたちがどういうふうな日本認識を踏まえていくかという。教科書は知識の栄養ということで捉えて、勉強しやすい教科書を選んでいただければと思っています。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

9者もあるということで、皆さんからそれぞれ意見を出されまして、私のほうからも若干触れさせていただきますと、子どもたち、生徒にとって、学び方や考え方を見ると、単元の構成であったり、配列だとか、発展性だとか、系統性ですよね。特に、歴史的分野で懸念されますけど、各領域の分量、バランス、偏りがいいかどうか等ですね。あと、中学生は義務教育を基としていまして、基本的、基礎的な事項の取扱い、あるいは、学校の先生方の意見も寄せられておりますけど、やはり、探究的な学びや家庭学習のしやすさ等々ですね。あるいは、対話的な学習ということが盛んに、主体的・対話的な深い学びということが言われているわけなんですけど、そういった観点を見て、各社をそれぞれ、私なりに調査させていただきました。各社の評価については、大体皆様のご意見で同じようなことを感じましたし、9者ありますけども、大体絞られてくるかなと。中野区の中学生にふさわしいものといったところでは絞られてくるような感じを持ちました。特にそれぞれの発行者ごとには触れませんが、そういう思いを持っておるところでございます。

さて、今、議事の中で、〇〇委員のほうから、令和書籍の採択は適さないといった動議が出されておまして、この調査委員会として調査報告書に付記してはどうかと。〇〇委員、こういう動議でよろしいですか。間違いはないですか。

○委員 はい、そうです。

○委員長 今、私のほうからお話を申し上げましたとおり間違いはないということですが、この動議について、調査委員会の要項を見ますと、出席者の過半数で可決ができるということでございますので、これについて採決をさせていただきたいと存じますが。

どうぞ。

○委員 動議でいいのですが、賛成なんですが、単年度で終わりですか。何年か続けるのですか。

○委員長 単年度と申しますのは。

○委員 単年度だと思いますけど。

○委員 単年度で終わると。

○委員 そうです。

○委員長 よろしいですか。

○委員 単年度で終わるといふことでよろしいですか。

○委員長 はい。事務局、そうですよね。

○委員 単年度というか、4年ですよね。

○指導室長 4年間です。

○委員長 この教科書自体は、採択されると、それは教育委員会が採択するのですが、4年間ですか。

○委員 だから、1年なのか、単年度なのか、そこを確認したくて。

○委員 4年です。

○事務局 4年になります。

○委員 確認をしてくださいということを行いました。

○委員長 それは、今、事務局から説明がありましたように。

○事務局 4年間使用することになります。

○委員長 4年間使用することになります。よろしいですか。

○委員 分かりました。

だから、この動議は何年間有効ですかという有効期限を、確認を取ってくださいということなんです。

○委員長 動議についての有効性ですね。

○委員 はい。

○委員長 動議についての有効性は、これは、調査委員会として調査報告書に付記するかどうかですから。採択するのは。

○委員 だから、その確認だけしておいてもらえばいいです。

○委員 採択までの間ですね、有効性があるというのは。

○委員 そのことを確認してくださいという。

○委員長 この委員会は4年後まで開かれないです、次の教科書採択までは。

○委員 だから、その説明が不十分だったから。

○委員長 それでよろしいですか。

○委員 その確認をしてくださいというお願いであったから、こっちは。

○委員長 4年間はこの調査委員会は開かれませんが、そんな形で残っていくだろうという事です。

○委員 そこが私は理解できなかったの。

○委員長 よろしいですか。

○委員 はい。単年度ということ。

○委員長 それでは、〇〇委員のほうからご発言がございましたけども、令和書籍を採択しないように付記するかどうかということなんですが、同意の方の挙手をお願いしたいと思います。

〔賛成者挙手〕

○委員 反対意見が出ないのに、いないのですか。そうなんですか。

○委員長 4名ということですが。

○委員 反対意見を出さないで反対なんですか。

○委員長 これは採決をするになっていますので、過半数ということになりますけども、4名の方が今、賛成をされたということですが、これについては、特に委員会として付記することはないにしても、この委員会自体が、皆様お1人おひとりのご発言が尊重されて、議事録としてきちんと残っていますので、その点をご安心いただきたいと思えます。調査委員会の調査報告として付記はしないと。

○委員 議事録が出るのは11月なんです。教育委員会の委員さんは見る事ができないのです、それを。要するに、ここで議論した結果は、一任された学識経験者方々が書かない限りは教育委員に伝わらないです。だから、ご安心くださいとかと言われると、余計に不安になるので、きちんと書きますという。

○委員長 ご安心くださいというのは議事録としての事実です。それは、まとめて取り扱うに当たって、それを付記するかどうかの採択は今したとおりですので。よろしいでしょうか。

○委員 何か論点をそらされた感じが非常にするのですが、それはちょっと。議事録に載

るから安心してくださいというのは取り消していただけますか。

○委員長 分かりました。それは取り消します。

○委員 オーケーです。

○委員長 よろしいですか。

○委員 はい。

○委員長 それでは、規則にのっとして、そのように扱わせていただきます。よろしくお願いたします。

続きまして、ちょっと時間が押しておりますけども、社会（公民的分野）をお願いいたします。いかがでしょうか。

それでは、順次またご発言をいただきます。○○委員からお願いたします。

○委員 東京書籍です。「導入の活動」、「もっと知りたい」、「まとめの活動」というふうに、全てのテーマが統一的に扱われているので、授業の進め方としてもやりやすいであろうし、学ぶ側としても一貫性を持って学習ができるように感じます。

教育出版です。「学習のまとめと表現」というところで、書かせる内容で子どもたちにまとめをさせようというところがあるのですけれども、一般的に今までもやってきていることですが、公民的分野であれば、その部分だけではなく、もっと意見交換が、ほかの生徒の意見を聞いたりする機会を多く持てるような工夫が欲しかったなというふうに思います。

帝国書院です。「アクティブ公民」というところは、1つひとつのテーマについて生徒がさらに深めていくというような活動が非常にやりやすい、促されているように考えられます。歴史的分野と同じように、帝国書院のものは、考えを整理する方法というような形で、知識というだけではなくて、学び方を教えるというところに結構ポイントを置いて教科書が作られているなというふうに感じました。

日本文教出版については、「チャレンジ公民」という部分で、学習内容と、自分たちが生活する現実社会との関連性をつなげていくというような工夫をしていける扱い方になっていたかと思います。法令集があるのですけれども、これをどのように活用していくかということは、授業者の力量であったり、工夫なのかなというふうに思いました。

自由社については、「アクティブに深めよう」というようなところ、それから、「現代日本の自画像」というところからスタートしている部分などについても興味深いなというふうに思いました。あと、「新聞や読み比べてみよう」というのは、教科書とするとかな

か画期的な扱いだっただかなというふうに思っで見させていただきました。

育鵬社です。「学習を深めよう」という部分、それから、「学びのガイド」という部分については、学習の進め方、それから、そのテーマについて、さらに個人的にも深めていこうという活動を促している編成になっているなというふうに感じました。

以上です。

○委員長 続きまして、○○委員、お願いします。

○委員 公民という分野ですので、いかに子どもたちが身近に自分事として様々な社会のこを受け取ることができるかということが重要な視点ではないかと思うんですね。そういった視点から見ていくと、日本文教出版が非常にそういったことの工夫ですかね。身近なこととして考えていこうというような工夫が感じられるように思います。指導者が非常にやりやすい点に注目しています。あともう1者、東京書籍についてもそういった工夫が感じられました。

以上です。

○委員長 ○○副委員長。

○副委員長 東京書籍です。グラフ、それから、ルビが非常に分かりやすく作られている構成だなと思いました。また、思考力、判断力、表現力等を育てたり、主体的・対話的で深い学びへの配慮というところでは、各ページに「チェック」であるとか、「トライ」であるとか、そういったものが配列されていて、使いやすいのではないかと思います。また、最後に、章末という形で「探究課題を解決しよう」というようなところもあり、非常に進めやすい教科書と捉えました。2次元コードも多くのページに配列されていました。

教育出版社です。こちら写真や図が多くて、分かりやすく、学習の見通し、あるいはノート作りなど、学び方というものを非常に意識した作りであるなど。こちら、「表現!」とか、「確認!」とか、「公民の窓」、「判例ファイル」というような、分かりやすさを非常に表に出しているような気がいたしました。また、各ページの下部に、小学校や、他分野、いわゆるカリキュラムマネジメントなどという言葉もございしますが、それとの関連性が非常にうまく表現されているように思いました。2次元コードではクイズ形式になっているものもあり、また、動画などもあって、内容を理解しやすいというふうに捉えました。

帝国書院です。資料が大きく、分かりやすく、こちら、「アクティブ公民」というところで、思考力、判断力、表現力等、また、主体的・対話的で深い学びへの配慮がされているなというふう感じたところです。また、進めやすさというところで、「学習の前に」

とか、「学習を振り返ろう」とか、そういった部分のそれぞれに専用ページの2次元コードなどもありまして、授業のスタイルとしては進めやすいなというふうに感じました。

日本文教出版です。資料の数が多かったり、また、章の初めの見通し、学び方についての記載があったり、さらには、「表現」、「確認」、「チャレンジ公民」などというように、こちらもまた、分かりやすい配列がされている教科書だなというイメージです。問題演習のようなものがあると、さらによりよくなっていくかなというイメージでした。2次元コードも多くのページにありました。

自由社です。資料はシンプルなものが多くて、見やすいという捉えがありましたけれども、国家論や家族論のようなものについて非常に多くのページを割いていますので、バランスというところでいかなものかなということを感じました。2次元コードもありませんでした。

育鵬社です。こちらは資料の提示も多く、また、「確認」や、「探究」、あるいは「コラム」など、そういった意味では他の発行者のような並び方で、学びやすい教科書で、工夫をしてきているなと思いましたが、2次元コードになかなかオリジナルコンテンツが少ないというところで、まだまだこれから研究の余地があるのかなというふうに捉えています。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 3つの種目に全部出している4者については、先ほど申し上げたことと同じような傾向があるのですが、その中でも、公民的分野は中学校3年生で学習する内容であるということもあって、それぞれにやはり、主体的・対話的で深い学びを促していくような工夫があるように思いました。特に、東京書籍では「スキル・アップ」とか、それから、教育出版では「確認!」、「発展」、この辺は思考力、判断力を伸ばす部分でありますけれども。また、帝国書院では「アクティブ公民」とか、また、日本文教出版では「アクティビティ」、「深めよう」など、そういう工夫があるなと思いました。

自由社に関しましては、そういう部分で少し対話的な学びの内容が少ないかなと。また、内容的にも少し難しい内容、また、2次元コードが入っていないということがちょっと印象に残っています。

育鵬社についても、シミュレーションとか、それから、コラム「やってみよう」、主体的・対話的で深い学びを促すような部分がありましたが、少し内容的にも深い、最初に公民を学ぶにはちょっと深いところかなということがありました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 どれもちょっと未来志向な感じで、今のことを楽しく学ぶという意味ではいいのかなというふうに思いましたが、特に、帝国書院はすごく未来志向なのかなという。今ではなくて、さらに先はどうなっているのだろうかみたいな問いが結構多かったというふうに思っています。

また、日本文教出版にあった「チャレンジ公民」は、社会参画の視点をテーマにしたような題材が多かったように思い、身近な質問から話し合っていけるような内容が多かったかなというふうに思うのと、中学校を卒業して、どんなふうに考えていくかというきっかけにもなるのかなというところが多くあったように思います。

また、東京書籍、教育出版等は、きちっとまとめられたというか、安定したというか、そんなような感じもして、「もっと知りたい」というコラムが充実していたりとか、「判例ファイル」とかがあったりとか、今のことを知るということにおいてはとてもいい教科書なのかなというふうに思って見ました。

自由社、育鵬社については、なかなか難しいのかなとか、話し合うとか、こんなふうに思っていることがみたいなどころを出していくという教科書の作りという感じでもないのかなというふうにちょっと思ったところです。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 公民は6者ですね。

東京書籍は、単元の導入資料が充実しているなというふうに感じました。これによって見通しを立てた学習ができると。あと、イラストを用いて図示されている部分が多くて、理解を促す工夫がされていると。

教育出版は、統一された構成、レイアウトになっているので、視覚的なイメージを構築できると。ただ、全体を通して資料が少ない。その少ない中でも、図があるのですが、図は大きくて分かりやすく描かれている。見通し、学習内容、まとめは明確に示されていると思います。

帝国書院は、現代的な内容が描かれているので、自分事として捉えられるように工夫が

されているというふうに感じました。また、課題についての問いかけ、それに対応した資料が充実しているため、考え方や表現の仕方に結びつけやすくなっている。イラストが多用がされているということが考えられました。

日本文教出版は、文章の分量は適切で、問いに対応しているため、利便性があると。あとは、分かりやすい資料、そういったものが充実しているというふうに感じました。

自由社は、読みやすい表現であります。例示、図で示されている部分が少ないというふうに感じました。

育鵬社は、写真や挿絵がほかの社と比べるとかなり大きいという特徴があるというふうに思いました。地理、歴史、公民、こういったものをなぜ社会科で学ぶのかということ、特に、なぜ公民を学ぶのかといったことが、構造図を用いて、3ページに書いてあったのですが、学習の意義を考えさせるということができるといふふうに感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 東京書籍ですけど、学習のまとめのところが「確かめよう」、「振り返ろう」、「深めよう」という3段階になっているというところで、最初は語句を選んで当てはめる内容から、最後は自分で説明ができるまでというふうに持っていつているのが、自分がどこまで理解しているかということが分かるのかなというふうに思いました。

教育出版のほうは、これは地理と歴史にも同じようなものがあつたのですが、「H O P !」、「S T E P !」、「J U M P !」というふうになっていて、基礎の確認から説明ができるまでということで、これも同じように、自分でどこまで理解できるのかということが分かつて、いいと思います。教育出版のほうの2次元コードの中でSDGsのことが入つているのですが、図になっていて、17の目標で、画面をタップすると、より深く説明をされているということで、興味を持つ子はより深く学びができるのではないかといいことで、ちょっと興味を持ちました。

帝国書院のほうです。巻末のところに法令集が2次元コードに入つていたのですが、赤文字になっているところをタップすると、細かい説明がされているということで、これも、子どもたちにとっては分かりやすい、探しやすいということがいいのではないかといいふうに思いました。

日本文教出版のほうですが、ワークシートを活用して学習の見通しができるといふこと

で、振り返りまで持っていけているということと、確認の小テストがついているということで、1つが5問ぐらいで、2次元コードの小テストの問題を解くのですが、問題のところで、分からなかったときにすぐに答えに行くのではなく、ヒントがついているということで、もう1クッション自分で考えさせるというところは活用できるというふうな印象に思いました。

自由社は、私のほうでは、自分で振り返るのは難しいのではないかとこのころの印象しかなく、すみません。

育鵬社です。各章の学習の「入り口」のところに、入り方として「何々の入り口」というふうにあるのは、入りやすいかなというところ。あと、先ほどの歴史と同じで、2次元コードは外部リンクに飛ぶだけということで、資料のみということで、もうちょっと子どもたちのために解説なりをつけていただけるとよかったなというふうな印象に思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 東京書籍さん、教育出版さん、帝国書院さん、日本文教出版さんは安定感がある感じで、バランスはどこもよかったなと思うんですが、東京書籍さんは写真や図表が充実していて、よかったです。学習のはじめの使い方や学び方も分かりやすく、デジタルの使いやすさも、見やすいということが、どうやら私的にはとても大きいようで、ここはすごく重要だと思いました。

教育出版さんは、こちらにも図表が分かりやすかったです。学び方やノートの作り方、記録のポイントがつかめることがよかったです。あと、デジタルでクイズとかまとめワークがあることが振り返りによかったです。また、思考ツールの紹介も公民に合っていて、よかったです。こちらは、章ごとの振り返りで具体的に使う例があって、これを積み重ねて、ほかの学習にも生かせるというふうな印象に思いました。

帝国書院さんは、導入の学び方が、整理はされているのですが、若干詰め込まれている感があることを感じました。こちらの「まとめ」は、章の中の3節を同時に振り返るというまとめになっていて、これはこれで、章全体の学びを俯瞰のできるもので、こういうやり方もあるのだなと思いました。「アクティブ公民」というところがありました、ロールプレイで、またその評価ができるというところですね。

日本文教出版さんは、新聞記事の読み方、伝え方は、今の子どもたちはあまり触れない

のかなと思うので、確かに、ほかに触れる文章とはまたちょっと違うものなので。新聞を作るということは子どもたちは結構学校でやっているの、そういうことに生かせるらいのかなと思いました。デジタルです。ポートフォリオ、ワークシート、クイズは小テスト式が楽しかったです。「チャレンジ公民」です。シミュレーションもあって、話合いのロールプレイ、また、その評価というものが大事なんだなと思いました。

自由社さんです。デジタルはなくて、かなり文章が多い印象でした。資料はグラフも多くて、「もっと知りたい」というコラムもあったのですが、結構読み物的な感じで、ちょっと難しいかなと思いました。関連のある学者とか政治家の写真資料は多いものの、文章の多さが気になりました。

育鵬社さんです。「学習を深めよう」というものは、内容はいいのですけれども、振り返り自体がもうちょっとコンスタントにあるといいなと思いました。「効率と公正」の学びのところで、部活動の平日のグラウンド割というEXがとても身近というか、子どもたちが真剣に考える題材で、いろんな意見も出てきそうで、面白いなと思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 東京書籍さんは、章ごとの探究課題が明確で、分かりやすく、よかったです。18歳が成人になったということで、18歳のステップということで、18歳に向けて準備するページがあって、よかったです。あと、デジタルコンテンツが見やすく、重要なワードをクイズ形式でチェックし、定着がしやすいと思いました。

教育出版さんは、コラムがよかったです。図表が分かりやすい。あと、「まなびリンク」で学習した内容をクイズ形式で確認できて、定着がしやすいと思いました。

帝国書院さんは、こちら「18歳への準備」ということで、「メディアリテラシー」であったり、「契約について考えよう」であったり、今から考えられるような、大人になったらすぐに対応しなければいけないようなことが載っていて、とてもよかったです。学習の振り返りや思考ツールを使った考え方のまとめ方が面白かったです。

日本文教出版さんは、「確認」、「表現」、学習課題に対応した本文ページの学習の見通しが行えるところがよかったです。こちら「明日に向かって」というところで、中学生が社会に参加するための手がかりが分かりやすく説明されていました。

自由社さんは、「ここがポイント」というところで章の重要な確認事項をまとめてあるので、学習の振り返りが見やすそうでした。ただ、ちょっと内容が難しかったです。

育鵬社さんは、「学習を深めよう」というところは、本文ページと関連した内容をさらに発展的に考えることができるというところですが、こちらもやはり内容が少し難しかったです。コンテンツも外部コンテンツのみで、もう少し丁寧なものがあるといいなと思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 やっぱり自由社と育鵬社はちょっと問題があると思うんですが、今回は動議は出しません。

まず、育鵬社、自由社に共通している点は、何か日本よよいという感じがすごくあって、例えば自由社ですが、「日本の国民は、社会の約束をよく守る親切で礼儀正しい国民である」とは僕は思わない。例えば、裏金を使ってみたりするわけですから、そんなのは駄目ですという感じです。あと、「カレーライス、日本に昔からあるご飯にインド伝来のカレーソースをかけた料理である」と。インドにカレーなんという料理はないですよ。インドをよく知っている人はみんなご存じだと思うんですが。インドの料理をカレーというので、定義がおかしいのですけど。とにかく、「江戸時代の知恵」で「江戸時代から日本にはリサイクル社会が成立していた」とか、いろいろ議論がありそうなことを断言してしまっているという点で、公民の教科書としては駄目だし、あと、育鵬社にも似たような記述があるのですが、それをあげつらうことはしませんが、家族に関する理解が特にこの2者はおかしくて、「家族は個人から構成されていますが」、それはそうなんですが、「個人はまた、家族の存在を前提として成り立っています」ということは憲法に書かれていますか。書かれていないです。というわけで、憲法に書かれていないような独自の意見がいろいろ書いてあるような気がします。あと、国旗国歌法というものがあるのですが、国旗国歌法は国旗と国歌は何々であると決めているだけの話で、「一般の家庭は、国民の祝日に国旗を掲げる。あるいは、国歌が流れたら起立して敬意を表する」とかということが育鵬社には書かれているんですよ。そういうことは決まっていることではないので、ほかに教えなければいけない内容はいっぱいあるのに、そんなことをわざわざ書くということはちょっとおかしいし、あと、育鵬社は「憲法は、国の理想や基本的なしくみ、政府と国民との関係などを定めたものです」と。僕はそうは思わないし、憲法学の本をいろいろ読んでも、ちょっと法律を勉強したのですが、そう書いている本はないです。というわけで、何かちょっと認識がおかしいのではないかという感じがこの2者にはしたので、採択して

ほしくないのですが、議決して否決されると嫌なので、議決してとは言いません。

そのほかの会社は似たり寄ったりで、どれでもいいですけども、特徴が割とあるのは東京書籍で、どなたかがおっしゃっていましたが、「私たちの政治参加」とかいうところで、「あと何年で投票できる？」とかいうところで選挙の流れを説明していたり、あと、SDGs というと、電気を節約しましょうとか、そういうせこい話になりがちなんですけど、近江八幡市の建築物の保存とかいう話にもつながっていて、これはほかの書籍にはないので、大変にいいかなと思いました。あと、平和の礎、沖縄にあるものですが、ほかのものでは写真をペロんと貼っているだけで、何の説明もないのですが、ここには、平和の礎の著しい存在価値、つまり、国籍や軍人、民間人の区別はなく、全員が刻まれている。名前が分からない人まで刻まれている。誰その次男とか、誰その長女とか、そのレベルで刻まれているのです。誰その部分が分からない者まで刻まれているという点で、これは靖国神社とかと違う正しい理解。靖国神社の名前が刻まれているのは、別にあれは軍人、民間人の区別がなく刻まれているわけではないですから、平和の礎の非常に正しい理解が書かれているという点で、東京書籍は飛び抜けていいかなと思いました。

教育出版に関しても、中野と沖縄は非常に深い関係があるから学習をすべきだというふうに思うわけですが、沖縄に米軍基地が集中している問題について割と大きく書かれていて、これは中野の人には興味を持ってもらいたいなとちょっと思いました。パレスチナ問題とかもちゃんと書かれています。

帝国書院は、「基本的人権が獲得されたものである」と明言しているのは恐らく帝国書院だけで、それはそうなので、ちゃんと書いておいてもらわないと困るなと非常に思います。

あとは日本文教出版です。日本文教出版は、家族というものの書き方に育鵬社と自由社は問題があると言いましたけども、日本文教出版に関しては、民法の家族法の部分に関して比較だけをしているのですが、それでいいのではないかと思います。必要にして十分に書いてあるので、これも、ほかの会社みたいに何となく地の文に入れるよりも、民法典の比較をしてもらったほうが分かりやすいと思うので、これはかえっていいかなと思います。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 6者を比べてみましたが、東京書籍ですけども、これは地理、歴史というふうなものとの関連で一貫していると思うんですが、「持続可能な社会の実現に向けて」という

テーマを掲げて、現代社会の問題点として、グローバル化、情報化、少子高齢化、この3つのことについて考えていきたいと思いますという提起をしています。ほかのところも幾つか、それと同じようなものがありました。

それから、教育出版ですが、これも「ともに生きる」というテーマを掲げて、これは教科書の副題にもなっているのかな。「18歳への準備」ということで、憲法の3原則というものをかなり重視して、国民主権、基本的人権、平和主義、その3原則の土台が個人の尊重ということなんですよということ、個人というものを大事にしていきたいと思いますということが含まれていたように思います。

帝国書院も「よりよい社会を目指して」ということを副題にしていて、先ほどの現代社会の問題点から政治の問題、経済の問題、国際社会、そういうふうに学んでいきますよということ、最初を打ち出していたということが印象に残りました。

日本文教出版も、「現代社会の問題点として」ということで先ほどの3点をまず掲げて、この中で持続可能な社会をつかっていくために考えていきたいと思いますというようなことです。それと、「私たちの生活と政治」という小項目を上げて、そこで、個人の尊重と日本国憲法というようなことでの憲法の紹介、学習、それから、生活と経済、国際社会ということで、日本文教出版は、生活と政治、生活と経済ということで、自分たちの生活の中でそれを探してみたいというようなことがありました。

それから、自由社ですが、いろいろ気になることがあって、やっぱり、ここでも「大東亜戦争（太平洋戦争）」という言い方をしているんですね。コラム欄なんですけど、日本人の精神というものを知らるためにというコラムで、大東亜戦争（太平洋戦争）が終わった後、ソ連で捕虜になった人たちがたくさんいたと。その人たちはいろいろやらされたのだけど、捕虜なのにとっても仕事が丁寧で、周りの人がみんな褒めた、そういう話が載せてあるわけです。これは日本人の精神なんだよという。そうなのかなということ、ちょっと疑問に思って、わざわざこれを挙げたのはなぜだろうかということ、疑問に思いました。それから、第2章が「立憲国家と国民」というふうになっているのですが、その中で、今の日本国の憲法というのは押しつけなんだということをおわせるというか、GHQがひそかに作成をして、日本政府はそれを受諾する以外に選択の余地がない状況だったと、そういう言い方で今の憲法の位置づけをしているんですね。憲法についても、憲法の3原則と4原則ということで、よく言われる国民主権とか基本的人権とか平和主義という、この3原則にプラスして、同じ言葉を使っているから混乱するのですが、4原則というものを

挙げて、象徴天皇、法治主義、間接民主主義、それから、三権分立ということを挙げているんですね。憲法の原則とは何なのかは、これを学んでいたら、ごちゃごちゃしていってしまうのではないかというような感じがします。そういう中で、とても詳しく説明をしているのは、憲法改正の手続はこういうふうにするんですよという。憲法改正を促すような表現というものが自由社には見られるというふうに思いました。

育鵬社も憲法改正については同じようなことで、「憲法カード」というものを出してきて、今の時代に合わなくなっているみたいなことで、例えば自由権とか、新しい人権とか、そういうものを項目として挙げて、今の日本国憲法の条文にはこの点についてはありませんとか、不十分な点がありますねということで出ています。そこも、今の憲法のあれはGHQが1週間で作成して、政府に受け入れるよう厳しく迫ったというような記事を載せて憲法の位置づけというものをしているというような点が非常に気になりました。

〇〇委員が言われるように、自由社と育鵬社は、やっぱり、中学生に与えて教科書として学ぶということにはふさわしくないのではないかというふうに思いました。

以上です。

〇委員長 〇〇委員、お願いします。

〇委員 全部見ましたが、皆さんがおっしゃるように、東京書籍、教育出版、帝国書院、この辺りが一番シンプルで、いいのではないかというふうに思って、後半の部分、日本文教出版、あるいは、後段のところはさらっと見させていただきました。内容も、3者は、皆さんがおっしゃるとおり、非常にシンプルで、見やすく、子どもたちの心の中にずっと響くようなもので、いいと思うんですが。

ちょっと私の勘違いであつたらあれなんですけど、東京書籍、教育出版と、前回のこの会議で見本を見たときに、表紙が東京オリンピックの表紙であつたような気がするのですが、昭和39年の。事務局、記憶にないですか、表紙は。東京書籍の社会科、公民の表紙が前の東京オリンピックの写真だったので、昭和39年の。それは前回のこの会議で最後に見た。それと、教育出版も見たときはそうだったので、今、確認しているけど、ないんですよ。変わったのですかね、表紙が。オリンピックの写真が表紙にあつたことを記憶しているのです、僕は。委員の方でご記憶の。そのことのインパクトがちょっと強かったのです、表紙がね。ということで、今、確認したくて見るのだけど、それが無いのよ、そういう表紙が。僕の見間違いかな。前回のこの会議では見ました。〇〇委員が見られた後、私も、各委員と同席させていただき、メモをして帰った。それで、教育出版でも

見た。

以上です。ちょっと子どもにはその写真はよくないと。

○委員長 ありがとうございます。

ちょっと時間も押しておりますけども、皆様のご意見は全く私も同様でございますが、やはり公民的分野も、様々、領域や、あるいは、単元等のバランスの偏りがないかどうかとか、現代社会の課題、課題解決学習に適しているかどうかといった視点で見たところでございます。個別学習だとか、協働的な学習ということが今、盛んに進められておりますけども、子どもたちの思考力といったものの重要性、話し合い活動等のテーマ等の設定の仕方とかを見させていただき、義務教育期の子どもたちにとって、基礎的・基本的な事項がきちんと学びやすく、正確に記載されているかどうかというところを見させていただいたところでございます。

○委員 すみません、ちょっと。写真はこれです。この写真です。歴史的なものだろうけど、ちょっと気になりました。すみません。ありがとうございます。

○委員長 承知しました。

以上で公民的分野について皆様のご意見を出していただいたということで、次に進めさせていただきます。

それでは、社会（地図）で、2者でございます。これについてそれぞれ、ちょっと時間が押しておりますので、申し訳ございませんが、時間のことも気にしながら発言をお願いしたいと思います。

○○委員、お願いします。

○委員 東京書籍です。地図の色合いについても柔らかめで、見やすい。それから、資料、レイアウト、それから、空間の使い方もよくて、全体的に資料として使いやすい編集になっているように思います。

帝国書院です。昔ながらの地図帳という感じがします。資料も多くて、統一感があまりなくて、ごちゃごちゃしているなというふうに思うので、そこら辺のところは工夫の余地があるかなというふうに思って見させていただきました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員、お願いします。

○委員 見やすさ、分かりやすさという点で、東京書籍が、2者しかありませんが、上か

なというふうに思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○副委員長。

○副委員長 非常に分かりやすく、色遣いも落ち着いている印象で、シンプルなものが東京書籍かなど。ただ、資料がちょっと少なめなイメージがありました。2次元コードが様々な資料に配列されているところはよいかと思いました。

帝国書院については、分かりやすく、見やすく、全体的に資料が大きく、地図活用のポイントみたいなものの表記があり、分かりやすさを感じました。様々なコンテンツの2次元コードもあり、歴史、公民との関連、そういったものが明確に示されているところも特徴かなと思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 地図としての見やすさという点では東京書籍のほうが見やすいかなと思いましたが、一方で、地図帳と言いますけれども、資料集としての側面もあると思って、そういう視点で見ますと、やはり帝国書院のほうが、同じ地域の地図に対してのいろんな統計的なデータを基にしている図が多く、また、もう1つは、鳥瞰図というか、俯瞰図的な、そういう立体的に見るような図が見やすいなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、いかがでしょうか。

○委員 どちらも同じような感じには見えるのですが、何となく帝国書院が見慣れているという感覚が自分の中にはあって、あとは、文化とか、言語とか、いろんなそういう資料が結構充実しているなということが印象としてあって、見慣れさがあるって見やすかったように思ってしまったのかなど、今、話を聞いていて、ちょっと思いました。また、地理だけではなくて、いろんなところに使えるというふうな学校用の意見を見たりなんかすると、そういう使い方もあるのか、地図帳はというふうに思ったので、そういうふうな側面でも本当は見ておけばよかったかなと思ったところです。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○委員。

○委員 2者ともデータ、資料は豊富であり、見やすい構成で、情報の分量が適切に設定されていると思いました。全体的な構成として、地域ごとに適切にまとめられている。2次元コードというところまでは2者共通ですね。あとは、2次元コードの活用場所があるか、ないかは東京書籍、帝国書院。あと、単色のものは東京書籍、色のコントラストがはっきりしているのは帝国書院だと思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 どちらも同じように見えたのですが、東京書籍のほうは、目次のところの字はぎゅっと詰まっている感じで小さく見えるので、ちょっと見づらいかなというところですよ。あと、色遣いは、帝国書院のほうは結構はっきりとした色を使っているのに対して、東京書籍は淡い色ということで、どっちがいいのかということは私には分からないですが、そこが2者の違いなのかなというところですよ。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 地図帳ということで、地形的な地図のほか、道路や位置的な地図という意味もあって、こちらは東京書籍さんのほうが見やすかったです。それに付随する資料、人口密度や宗教なんかは、こちらの資料は帝国書院さんのほうがより充実しているなという印象でした。

デジタルのほうは、東京書籍さんは比較的シンプルというか、使いやすい。デジタルマップがよかったです。帝国書院さんのほうは、昔の日本の地図であったり、ちょっとステップが多かったり、それは要るかなというシンプル過ぎる絵だけのものであったりということが、ちょっと残念な印象が上書きされてしまった感じです。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 東京書籍さんのほうはサイトが見やすく、よかったです。他分野との関連を扱ったページができていて、学びやすいと思いました。

帝国書院さんのほうは、色コントラストがはっきりしていて、きれいで、コンテンツがいろいろあって面白かったです。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 帝国書院のほうで統計が詳しいかなと思いました。

東京書籍のほうでちょっと特徴的だなと思ったのは、海の水深を、色分けするだけではなくて、段彩図っぽく、谷間とか、そんなふうに描いていて、これは分かりやすいけれども、実際には水深の情報は落ちている感じもするので、分かりやすいけど、これでいいのかなという感じはちょっとしました。

あと、東京書籍で気になったのは、地図に特産品とか、名所旧跡みたいなものを書いてある。どちらの業者にも書いてあるのですが、アイコンが大き過ぎて、ちょびっとしかない感じで、帝国書院のほうは、例えば、中京地域とかで言うと、車のマークがやたらいっぱいあつとあるみたいな感じで、いいのですが、東京書籍は少ないから、アイコンにしてもらったところとしてもらっていないところで差ができてしまっている感じがして、書くのであったらたくさん書いたらいいのではないかとちょっとと思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 色遣いとかの点で見やすかったのは、東京書籍のほうが見やすいかなと思いました。一見したところ、帝国書院はちょっとコントラストがきついなというふうに思いました。

あと、今、話題になっているイスラエルとかウクライナについてですが、東京書籍のほうは、イスラエル周辺ということでイスラエルの国の拡大図があつて、その中にパレスチナが赤点で囲まれていたりとか、ガザというのはここにあるのだなということとは分かりやすい。帝国書院は、それに対して、イスラエル・パレスチナという項目になっているんですね。はっきりとパレスチナ自治区ということで赤い囲みがあつて、こういうふうな政治体制ということの説明をしていきやすいというふうな感じがしました。あと、ウクライナについては、東京書籍は、ウクライナが中心になっている地図が1つ余分についていて、こういう位置にあるのだなということとは分かりやすいと感じました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 2者とも伝統のある会社ですので、いいと思うんですが、自分はいまだに帝国書院のものを。今日の朝も見てきました。そのときのものを使っていますが、もうぼろぼろになっていますが、帝国書院はずっと愛着を持っていますので、帝国書院かなと思っています。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

私のほうからも、皆さん方から意見を出されていることに尽きると思っておりますので、特に何か違う意見を持っているわけではございませんので、次に行かせていただいでよろしいでしょうか。

最後に、道徳ということになりますが、7者ございますので、また順に意見を頂戴いたします。

○○委員、お願いいたします。

○委員 中学校は教科担任制なので、自分の担当する教科があるわけですがけれども、道徳に関しては全部の教員が扱う教科であるということで、自分でもこんな教科書を使ってみたいという視点で見られるということもありまして、まず、東京書籍ですが、「調査研究一覧」のところにも書かれていますけれども、「生徒の心に響く名作と言われる教材が豊富に盛り込まれ」というようなことがあります。新しいものもどんどん入れていって、それぞれの教科書会社がやられているのですが、やはり、この教材を扱って、こういう授業をしたいなというものが残されているということで、ほかの教科書会社もそうでしたが、東京書籍についてはそういうふうな感じがしました。

教育出版です。「学びの道しるべ」ということで、どんなふうにもそのテーマに沿って考えていくかというようなことが示されている。それによって教科書が編成されているということがよかったなというふうに思っています。

光村図書です。「見方を変えて」という発問があって、道徳については様々な考え方を持っていていいのだというようなことが広がっていけるような気がします。それから、グループでの話し合いというような、グループ活動の進め方というようなものも示されているということは、今の学校における授業の進め方なんかに適しているのかなというふうに思いました。

あと、ほかの教科書会社もそうですけれども、漫画が非常に取り入れられているのですが、それはいい部分もあるのですけれども、漫画を入れることだけがいいのではないかなというふうに、光村図書なんかを見ていて思いました。

日本文教出版です。これは、「道徳ノート」というものがほかの教科書会社と比べると独自のものなのかなというふうに思っています。その扱い方については教員が工夫をしていけるものだと思いますけれども、面白い発想であるし、面白い教科書だと思いました。

G a k k e nです。ほかもそうですけれども、時代に合ったテーマをいち早く取り入れ

ているということが感じられました。「深めよう」というような部分が、授業としてそこがさらに、いろいろな話の中で意見が広がっていくように思いました。「クローズアップ」という部分で、表面的な内容だけでさらっと行かないで、個々の意見、いろんな意見を持っていいのだというようなことが深めていけるものになるのではないかというふうに思いました。

あかつき教育図書については、「自分を見つめて考える」というような部分が、ほかの会社にもあるように、いろいろな意見が広がっていく工夫ということがされている部分かと思いました。

日本教科書株式会社、ここは、カードが独自の扱いをしているのですけれども、カードを授業として使っていくのであればいいのですが、そうでなかったときには、何かもう一工夫が欲しいなというような部分も感じました。ウォーミングアップということで、授業へ入っていくところの導入部分には工夫がされていて、よかったかなと思います。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 道徳の授業が、以前のように、自分と向き合うことだけではなくて、考え、議論をするというふうに今はなっているということを考えると、そういった工夫がされているということが視点かなというふうに思うんですね。いかにグループで話し合うことができるかということを考えていくと、最後の日本教科書の「ウェルビーイングカード」というものはとても斬新というか、面白い工夫があるなというふうに思いました。今の子どもたちは、話し合いなさいと言っても、なかなかうまくいかないところがあるので、こういったものを用いてやるということも1つはあるかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ○○副委員長、お願いします。

○副委員長 どの教科書も非常に工夫がされていて、やはり、道徳の教科書は、注目されながら、しっかり作られてきているなという印象です。ですので、甲乙つけ難いというところが1つです。先ほどから触れられていますけれども、余計な心配かもしれないですが、日本文教出版の「道徳ノート」、これもなかなか特徴的でありながら、これを知らないまま副教材を買ってしまったら、2つノートを使ってしまうなという心配をしたりとか、各校がしっかり道徳の研究をやっているところだと、それなりにしっかりとしたものもあるので、一律に1つの区でこれを導入するのはどうなんだろうかという心配もしました。同

時に、「ウェルビーイングカード」も同じだというふうに捉えましたので、採択の際には、公立中学校は9校ございますが、各校の実情と実態をしっかりと把握しないと、採択のときに大変かなということを感じました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 中野区の教育課題の中に、「いじめのない中野区を目指して」ということで、学校教育の中でもそういう取組をしているのですけれども、道徳の教科書の中に、例えばいじめについて、ダイレクトに「いじめ」という言葉を出しているものがどのくらいあるかということを見てみたのですが、ほぼ全ての教科書会社が出している。G a k k e nが「いじめ」という言葉をちょっとぼかしているかなという印象がありました。ただ、その中で、日本文教出版は、1年間の学習の目次の中で、いじめに取り組むテーマを集中的に3回ほど設けている、そういう構成になっています。その辺については中野区の教育課題に対しては合っているかなという印象を受けました。ただ、一方で、先ほどもちょっとありましたけど、「道徳ノート」については、いろんなノートがついていて扱いやすい一方で、やはり、既にノートに書いてある設問とか、そういうものが、書かれているものなので、実際に指導の工夫をするという部分では、ちょっと予定調和的になりがちなのかなというきらいもありまして、逆に、データで出ている他の発行者さんのワークシートのほうが、後で自分たち指導者の考えなんかでワークシートを考えながら、より深められるような題材を作れるのかなというふうに思っています。

デジタルのコンテンツの中でちょっと目を引いた東京書籍は、デジタルで、「NHK for school」にリンクしているという辺り、道徳に関連したものを見つけるのはなかなか大変なんですけど、こういうところにリンクしているものはなかなかいいかなと思っています。

また、あかつき教育図書については、内容的には、やはり、予定調和ということに対して、生徒たちが話し合ったり、2つの対立するような道徳的価値観をジレンマさせる、そういうような内容の題材が多いなという印象を受けています。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 いろいろ工夫されて、すごくかわいい感じの教科書が増えたなというふうな印象がものすごくあります。いろんなことを話し合うということが道徳のメインかなというふ

うに思うと、目次を見てみると、内容の偏りの順番で成っているというところがあったりとか、もっと分かりやすい目次で、こういうテーマで話し合っているのはこことこことこだよみたいな分かりやすい目次を作っているところもあったりなんかして、どういう順番で学校で扱うかということは、学校にも半分は任されている部分があるので、それが一概にいいとか、悪いとかということではないのですが、そういう目次があったりすると分かりやすいなと思ったものが何社かあったかなというふうに思っています。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 各発行者ありましたけど、2次元コードで漫画が使われているとか、SDGsの取上げとか、全体の構成など、写真、挿絵などもありましたが、道徳の授業は、読み物教材が教科書になっていますので、それが全てです。どの発行者でも、授業をする側としては、しやすいなというふうに感じました。細かいところは、補助教材などの違いがありますけれども、どれでも言われたものでできるというふうに感じました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 3者であったのですが、さかなクンの「さかなのなみだ」というものが印象的で、会社によってイラストの色遣いがすごく違っていて、1者だけがちょっと暗いイメージの色になっていて、暗いイメージだったのは光村図書です。これは、いじめだからというところで暗くしてしまっているのかどうかはちょっと分からないですが、イラストだけでも明るく、前向きになれたらいいのかなというふうに思いました。

それ以外では、東京書籍さんは、中学生になってやってみたいことということで書くところがあるということは、1年生にとって、これから頑張りたいことの目標を書けるということはいいかなというふうに思ったところです。

教育出版のほうでは、必ず学んでほしいところだと思うんですけど、色づけをしているところで、すごくテーマが分かりやすく掲げられているのが、勉強をしやすいのかなというふうに思いました。

先ほどの光村図書にちょっと戻ってしまいましたが、2次元コードがついていて、それが朗読をしてくれるというところで、本を読むのが苦手な子にも朗読してもらえるのであれば、それがまた聞きやすいとかいうことがあったりするのかなということで、これも活用してほしいなというところが気になりました。

日本文教出版さんは、別冊のノートがあって、フリーに書けるということが、子どもたちがいろんなものを書くのにいいのかなというふうに思いました。

G a k k e nのほうは、本文のタイトルのところの下に、「命」とか、「情報モラル」とか、テーマが書いてあるということが、本文に入る前に分かりやすいかなというふうに思いました。

あと、あかつき教育図書のほうは、巻末のところの「SDGsの視点」というところで女性の運転士やマータイ博士のところを紹介していることが印象的でした。

あと、日本教科書株式会社のほうは、「ウェルビーイングカード」があるということに興味を持ちました。

以上です。

○委員長 ○○委員、いかがですか。

○委員 光村図書さんで、物語に対しての、どう考えていこうかという具体的な問いがよかったですと思います。全体を通して、自分を知る、相手を知る、それが社会になっていくのですけれども、尊重すること、されることということがとても丁寧に扱っていたなと思います。

日本文教出版は、「よりよく生きる」をテーマに、1つの題材がちょっと長めだなと思うんですが、朗読などもデジタルでフォローする辺りが、理解が深まるので、音声、動画、ワークシートなどで、この流れはよかったなと思います。ユニットとしていじめのテーマが何回も出てくるのが印象的でした。

G a k k e nさんは、1つの教材の後の「深めよう」ワークシートがとてもよかったです、よりよく生きるためということで。教材と扱い方、この見せ方が幅広くて、2ページのみ短編であったり、漫画やセリフでストーリーが進むものなど、これはいろいろあって、面白いなと思いました。

あかつき教育図書さんは、「目の見えない白鳥さんとアートを見に行く」というものがちょっと印象的で、ただいいとか、悪いとかではなく、私だったらという現実がただずっとあって、いまだに、これを目にしていたら、ずっと考えています。

日本教科書株式会社さんは、4コマが全編でところどころ出てくるのですけれども、大変秀逸で、分かりやすく、深いなという印象でした。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 どの教材も、読むだけではなくて、みんなで演じてみたりとか、みんなの意見を集計するようなツールがあったりとかいう感じで、考えるということが多くできていて、どれを選んでもいいかなというふうに思いました。それで、やはり、日本文教出版さんの「道徳ノート」や、日本教科書株式会社さんの「ウェルビーイングカード」なんかは特徴を持った教材で、いいと思いました。使い方はちょっとよく分からなかったですけども、みんなの考え方を具体的に考えられて、いいかなと思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 僕は、「ウェルビーイングカード」とか、日本文教出版の「道徳ノート」については逆で、これは駄目でしょうとしか思えなくて、道徳はもともと、教員がマル・バツをつけるようなものではなかったというか、そういうふうに言って導入された科目のはずなのに、いつの間にかずれて行って、こんなふうになってしまったという感じがします。

保護者・区民からの意見の中にもあるのですが、6月13日に70代の人が出ているのですが、「日本教科書は執筆者に現場の人が少なく、また産業界でどのような人か分からない人がおり」と。僕もそう思っていて、そういう人が作った「ウェルビーイングカード」とは一体何でしょうか、産業界にとってウェルビーイングなんですとかいう感じがちょっとします。

その中で、比較的ましな感じがするのは、中野区が独自に採択するというのを考えると、「中野区では若者会議や中野ハイティーン会議など」、これは6月12日の区民の意見なんです、「教育出版の教科書の3年生に愛知県での若者会議についての文章があり」ということで、これは、今、具体的に名前を出すとどうかと思ってしまうのですが、愛知県新城市出身の間ひとみさんという区議会議員の方がおられますが、その方は、これがまさに区議会議員になるきっかけになったので、道徳の本でそういう人を、間ひとみさんを取り上げるわけではないですから、新城市の高校生の会議を取り上げるということは非常にいいことではないかと思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○委員、お願いします。

○委員 道徳は7者もあるのですが、それぞれが、道徳というものはこういうことを学習するんですよということを言っているんですよ。微妙にその呼びかけというか、子

どもへの呼びかけが違って、例えば東京書籍は、「自分自身の心を見つめ、人間としての生き方を考える」。それには注がついていて、生き方というのは人それぞれで違うから、この時間は正しい答えを見つける時間ではありませんよということを、道徳の時間の位置づけとしてわざわざ注意書きをしている部分があって、これは共感できました。それから、目次のところに、誰の話とか、こういうテーマでということがありますが、その下にまとめて「いじめ」ということと「命」ということだけを色分けして、これはいじめのテーマですよ、ここは命がテーマですよということを、その2つの部分のだけが強調されているんですね。それはほかのものではどうなのかなというふうに見てみたら、幾つかあって、その比較もちょっと面白いなと思いました。

教育出版は、道徳の時間というのは、「自分自身を見つめ、学級の仲間と議論しながら、人間としてのよりよい生き方について考えましょう」という。つまり、学級の仲間と議論しながらということが前の東京書籍とは違うというところで、「議論しながら」ということを付け加えているというか、それを言っているのは、光村図書は「友達と話し合いながら」ということを言っています。それから、日本文教出版も「みんなで考え合う」と、「みんなで」ということをつけていますが、そういう点でちょっとずつ違うのかなというふうに思いました。テーマの点では、教育出版は、「いじめ」、「命」、それともう一つ、「つながり」という。これは概念がよく分からないのですが、「つながり」ということがテーマとして目次のところについています。それ以外にも、Gakkenは「情報モラル」ということが目次のところに強調してあったり、あかつき教育図書は、「情報モラル」と「いじめ」と「キャリア」ということを強調していたりというふうなことがあって、この辺が違って、どうなのかなというふうに思いました。

それから、日本文教出版は「道徳ノート」というものが別冊でついていたとか、それから、日本教科書の「ウェルビーイングカード」ですか。これは、授業でやるときに、やりやすいと言えばやりやすいかもしれないけど、子どもの側からとってみれば、保護者の声にもありましたが、よけいな世話という見方もあるし、話し合いをするというときに、一定の方向づけが最初からできてしまっているのかなという、そんなようなこともあって、これはなくてもいいのではないかと、本当に道徳の授業をやっているというときには、ないほうがいいのではないかとこのように思っています。

あと、目標のところ、日本教科書というのは、ちょっとだけ色合いが違うかなと思うのは、最終的なところが「考えよう」とかいうことではなくて、「よりよくあるための考

え方を探ろう」ということとか、「みんなにとってよりよいあり方」を考え合うということで、「よりよいあり方」というところに中心が置かれているので、日本教科書はちょっと色合いが違うかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長 ○○委員、お願いします。

○委員 道徳は、何というのかな、どの教科書でも問題ないだろうと思うんですけども、自分を見つめる、生徒自身を自己研鑽するというような位置づけではないかと思うんですね。読み聞かせ、あるいは、教科書に頼らないで、担任の先生がいろいろお話をされる。時には学年で道徳のプリントのようなもの、あるいはテレビで見たりと。そういう中で教科書を使われて、自分の心のよりどころとすることなので、現場の先生方のやりやすいような形の道徳の教科書がいいのではないかと思います。また先生、読むのか、つまらないな、この道徳の授業はとなるわけなので、いろんなバリエーションがあります。その中の一助として道徳の教科書を。だから、1者に決めなくても、3者ぐらいで、学校選択でA者、B者、C者を中学校で選ぶとか、そういう方法も1つの方法ではないかなと思っていますが、そういう方法もあるんですよ、こういう時代ですから。区民の代表ですから、教科の道徳は今、どういう位置づけなのかは、古い人間ですから、道徳は授業ではないというふうに習ってきた人間ですから、今は教科書があってやっているということがちょっと不思議なぐらいで、そこには学校の特殊性もあるだろうから、ちょっとまとまりがないですけども、そのような選択方法もあるのではないかなというふうには日々考え、多少そういうところの融通があってもいいのではないかなと思って、全部見ましたが。昔はなかったですからね、道徳の教科書なんというものは。なかったし、あるいは、学校独自でやっていて、それがこういう形になっているわけですから、1つの形にはめようとしているわけですから、はめなくてもいいのではないかなということが私の意見で、そういう中で付随している教科書を選ぶのですから、それは現場にお任せしてということではないかと思えますけど。どこも甲乙つけ難い、まとまった本だと思いました。私は最初に言いましたが、教科書は知識の栄養ですから、そういう視点で私も選ばせていただいています、参加させていただいていますので。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

様々ご意見をいただきましたけど、道徳は、ご意見をいただいたとおりだと思うんです

が、中野区がこれまで大事にしてこられた部分というものも結構あって、恐らく道徳的な実践力といますか、子どもたちにそういったことが求められてきて、中野区全体で取り組んでこられたことが、これから先も、人権感覚だとか、人権意識だとかといったような点で、私はやはり、友達というか、学校の特質として、協働的に共に学ぶというようなところで、考え、学び、実践力につなげていけるというようなところを、ぜひそういう採択がされればいいかなという意見を持っております。

委員の皆様から闊達なご意見を今日はいただきまして、ちょっと時間も過ぎたところまでございまして、大変申し訳ございませんでした。また次回もごございますけども、ぜひこのまま闊達に、様々なご意見をいただければということがこの委員会の大きな特徴でございまして、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、事務局のほうへバトンをお返しいたします。

○事務局 皆様、ありがとうございました。

それでは、今日の第3回の会議については、社会（地理、歴史、公民、地図）、あと、道徳が終了したということで確認をさせていただきたいと思います。

次回は国語、書写、数学、理科、英語までのご意見をいただければと思います。

また、次回ですが、最終回となりまして、7月1日（月曜日）の午後1時30分からで予定しております。また、会場は12時から開場しておりますので、お早めにお越しただいて教科書をご覧いただくことも可能でございます。

また、次回が最後となりますので、皆様にお渡しをさせていただいている調査研究会資料等の一式もご返却いただければと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

では、以上で第3回中野区立中学校教科用図書選定調査委員会を終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。

午後4時10分閉会